平成30年度
第１回教育委員会（定例）
報告６　別冊資料

平成３０年４月定例教育委員会資料

報告事項

報告資料

学校評価報告書

小・中・特別支援学校

（平成２９年度）

篠山市教育委員会

平成29年度　学校評価報告書（まとめ）

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価（主な評価）
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
篠山小学校	「こころ豊かで　進んで学ぶ　ふるさと大すき　ささっ子」の育正	（学校経営）地域とともにある学校づくりの推進 ・毎月の学校だより、毎週の学級通信、HP（ほぼ毎日）等による教育活動等の発信において、地域の方から楽しみにしているという声を聞けるようになった。 （学校経営）ふるさと教育の充実 ・老人会、ディスカバー、地域活動栄養士会、町づくりの会等、地域人材の協力得て、ふるさとの特色や良さに気づくことができた。特に「お城ガイド」は、児童に大変好評であった。	（学習指導）生活リズムと家庭学習 ・家庭での読書の時間の確保が十分にできなかった。	（学習指導）生活リズムと家庭学習 ・家庭での読書時間に差があるため、中央図書館が作成している読書手帳を活用し、意欲の向上につなげる。	・算数科が好きになったという児童がでてきたのが望ましい。 ・児童生徒のトラブルはどこでも起こり得るものだと考える。早期対応が原則なので、その場で指導を重ねていくことが鉄則ではないか。 ・学校図だよりを読むのを楽しみにしているという地域の声を聞くことがある。また、ホームページも毎日のように更新されている。学校での出来事がよくわかり今後も積極的に発信していただきたい。 ・家での読書の時間が少ない。小学校時代から読書の楽しさや面白さを教えていただきたい。 ・地域素材が豊富な所なので、ふるさと教育の更なる充実に努めてほしい。
八上小学校	「夢や目標を持ち、自立して学び続ける児童の育成」	（学習指導） ・授業において、児童の課題にあった丁寧な指導を行い、基礎・基本を定着させることができた。 ・授業において、「めあて」「まとめ」を意識させ、見通しを持って学習に取り組ませることができた。 ・話し合う活動を計画的に取り入れるなど、学習形態を工夫し、学び高め合う学習指導に取り組めた。 （生徒指導） ・児童に考えさせ、児童自身主体的に取り組む児童会活動や学級活動が行えた。		（学習指導） ・複数指導によって児童の困り感を見取り、教師間で共通理解を図ってきめ細やかな指導に生かしていく。 ・発達段階や学習内容に応じて予習を取り入れる。 ・気軽におたずねができる学級づくりを通して、聞き返しのできる能力を育てていく。 （生徒指導） ・自分たちでより良い学校にしていく活動ができるように考えていく。	・いじめ問題についてはスマホ等の正しい知識など犯罪に巻き込まれない教育を進めてほしい。保護者もいろいろな情報を知る必要がある。 ・八上小は人権朝会を実施し人権だよりを発行している。このまま、人権の基盤を大切にしてほしい。 ・学校が避難所になっているため、エレベーターやスロープの設置などを含む施設のバリアフリー化が必要である。 ・教職員の業務改善が進んでいることがうれしい。決められた時間内に仕事をすることも大切である。教師が健康を害したら児童にも保護者にとっても大変であることを知っていただき、業務改善を今後も続けていただきたい。
城北畑小学校	「共に学ぼう　より深く　　共に歩もう　力を合わせて 共に伸びよう　たくましく」	（学習指導） ・児童一人一人に考えを持たせ、対話活動の充実を図ることで、共に高め合う授業づくりに取り組むことができた。また、授業スタンダードの確立を図ることができた。校内研修会を通して、ペア、グループ学習、全体交流会で伝え合うことの充実が図れた。また、外国語教育の授業、教材開発に努めることができた。 （生徒指導） ・コミュニティ・スクールの活動と連携したあいさつ運動や人権安全朝会、人権参観日、道徳親子感想文等の取組を通して、規範意識の高揚を図るなど、児童の道徳性を育むことができた。 （保護者・地域との連携） ・学校だより、学級通信、ホームページの更新を行い、学校の取組を積極的に発信できた。			・挨拶運動に取り組まれている成果があり、地域で小学生がよく挨拶をしている。 ・いじめについて小学校ではどのように対応されているか説明してほしい。また、最近SNSを利用していじめに発展するケースがあると聞くがどうか。 ・保護者、児童アンケートの結果を見ると、7月より11月の方が評価が高くなっている。先生方の指導の成果が表れている。 ・学童保育の建物が来年度完成予定であるがどのようなものか。 ・コミュニティ・スクールで5つのサポート事業を展開されているが、さらに充実した取組を進めてほしい。
岡野小学校	「やさしく　かしこく　たくましく」 ～元気な子ども！　元気な先生！　元気な学校！～	（学校経営） ・学校だより；学級通信、ホームページの更新等、積極的に情報発信を行うことができた。 ・学校運営協議会を中心に、地域行事に積極的に参画したり、地域の方に学校の授業や行事に参加いただいたりと、地域との連携を深めることができた。 （学習指導の充実） ・スキルタイム（計算・漢字・読書）の工夫改善を図り、全校的にしっかりと取り組むことができた。また、児童に意欲を持たせる工夫ができた。 （生徒指導の充実） ・いじめや問題行動、不登校傾向の児童に対し、生徒指導委員会を中心に、組織的に対応することができた。		（生徒指導の充実） ・今後さらに組織力を高め、問題行動等の未然防止や早期発見、早期対応に努める。	・日々の教育活動において、先生方の努力、児童と向き合う姿勢、チームワークの良さに敬意を表する。 ・真摯に向き合った自己評価であると思う。もっと高い評価でもよいのではないかと思う。 ・先生方の研修の成果がよく表れ、児童の学習態度も落ち着いている。 ・学校の様々な取組について、先生方には自信を持って継続していってほしい。 ・岡野小の児童が元気に楽しく学校生活を送っているのが何よりありがたい。

平成29年度　学校評価報告書（まとめ）

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価（主な評価）
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
城東小学校	未来に挑戦する　たくましい力と心を持つ子の育成 ～Challenge・Chance・Change～	（保護者・地域との連携）体験活動やゲストティーチャーの活用 ・食育を中心に、地域の方をゲストティーチャーに招くなど、地域人材の活用を図ることができた。また、それによって、児童の学びが深まり、ふるさと意識の高揚を図ることができた。			・落ち着いた学習態度と地道な取組で、基礎学力の定着が図れている。さらに、学力向上に向けて取り組んでほしい。 ・校内の施設については、定期的に安全点検がなされているが、死角になるような場所にも気をつけてほしい。（通学路も含む） ・アンケートを取って実態を把握することは大切だが、結果に振り回されず、今何が必要かしっかりと見極めて学校教育に当たってほしい。一つのことに職員同士でじっくりと話して取り組むことで、連帯感や達成感が生まれる。 ・児童だけでなく、保護者や家庭も含めてみていくこと。連携を取りにくい保護者もあるだろうが、外部機関も活用して児童の成長を支援してやってほしい。地域としても、出来ることは協力し、学校を支えていきたい。
多紀小学校	多紀を根っこに、自立して未来に挑戦する子の育成 ～多紀に学び、多紀を語り、多紀に貢献する子を育む～	（学力の向上）論理的に書く活動の充実 ・条件を付した短作文の活動の日常化を図り、児童が書くことに前向きに取り組めるようになった。 （学力の向上）「めあて」と「振り返り」の徹底 ・授業に「めあて」と「振り返り」の場を確実に取り入れた。 （地域とともにある学校づくり）情報発信及び学校運営協議会の推進 ・学校だよりやホームページの更新、オープンスクールの実施を通じ、地域への積極的な情報発信と学校運営協議会を核とした取組を推進し、地域とともに児童の健全育成を図ることができた。 （地域とともにある学校づくり）あいさつ運動 ・学校と家庭・地域が連携してあいさつ運動を実施し、習慣化を図ることができた。	（生徒指導の充実）いじめ等生徒指導上の問題の未然防止、早期発見・早期対応 （生徒指導の充実）集団づくり ・互いを尊重し高め合おうとする集団づくり （生徒指導の充実）自立に向けた取組 ・「あいさつ・あつまり・あとしまつ」「まいにち・まじめに・まっさきに」等、自立に向かう基盤づくり	（生徒指導の充実）いじめ等生徒指導上の問題の未然防止、早期発見・早期対応 ・アンケートをはじめ、様々な情報収集活動により児童の状況や問題行動等案の内容を複数の職員で迅速に把握し、対応チームを核として全職員で共通理解、共通実践するよう改善を図る。 （生徒指導の充実）集団づくり ・学級会での話し合い活動等を活用し、リレーションの手法を用い、お互いを尊重し、折り合いをつけて、集団としての意思決定を図るよう努める。さらに、教職員の集団を伸ばす力を高める研修を行う。 （生徒指導の充実） ・日々の目標設定と振り返り活動を通して、意識化を図る。様々な場面でこのことに触れ、児童のさらなる意識高揚を図る。	・多紀に学ぶ教育はこれからも一層推進してほしい。 ・元陸上長距離選手の小林祐梨子さんを招聘したことは良かった。今後も本物に触れる体験を大切にしてほしい。 ・情報通信機器が発達する中、ネットのトラブルは、特殊なものではなく現実社会の中で起こりうることである。ぜひ、来年度は講師を招聘して児童と保護者が一緒に学びたい。 ・金管バンドの演奏を聴いていて年間を通じて演奏技能が向上していったことがよくわかる。特に、「英雄の証」は難しい曲であったが、練習を重ねてとても上手になった。金管卒業コンサートは素晴らしかった。 ・地域の方が毎週レッズンに来ているのはよい。地域と連携しながら、取り組むことをこれからも大切にしてほしい。
西紀南小学校	自他を大切にし、夢や希望をもって一生懸命に学び、確かな学力と豊かな心をもった児童を育成する	（学校経営）地域とともにある学校づくり ・登下校の安全対策（下校放送等）を実施し、安全対策について協議を重ね、児童の登下校の安全対策の充実を図った。 （学習指導の充実）進んで学習する児童の育成 ・各学年の手引きをもとに児童が進んで自主学習に取り組んだ。お互いの自主学習ノートを見合う機会を設け、意欲向上を図った。保護者アンケート（後期）で、「家庭学習の習慣が身についている」の問いの肯合が、前期より増加した。 （生徒指導の充実）進んであいさつができる児童の育成 ・児童会役員による毎週の挨拶運動、育成会による挨拶運動等により、進んで挨拶できる児童が増えた。 （生徒指導の充実）豊かな心を育む学習・活動の推進 ・みなみん相談（児童との面談）を学期に1回実施し、いじめの未然防止に努めた。また、年間を通じて人権朝会を実施し、10月には人権月間で校長自らが人権講話を行った。さらに、人権参観日において、全クラスが人権に関する授業公開を行った。		（生徒指導の充実）進んであいさつができる児童の育成 ・いつでも自然に挨拶ができる児童を目標に取組を進める。	・「勉強がわかる」と回答した児童の割合が93%であることは大変良いが「わからないことがある」「わからない」と回答した児童が前後期とも7%いる。この児童への指導の工夫が必要である。 ・読書習慣が身につくよう環境整備を進め、様々な取組を行った結果、よい成果が出ている。今後、読書量と共に読書の質が高められるよう指導を工夫してほしい。 ・褒めることを大切にした取組により、自尊感情が高まった学年がある。学校全体として自尊感情の育成に力を入れてほしい。 ・児童・保護者ともに、アンケートの結果が多くの項目で前期より後期の方が良くなっており、児童の成長が伺える。先生方のきめ細かな指導の成果だと思う。 ・児童・保護者・教職員のアンケート結果については、項目ごとに三者の比較ができるよう、まとめ方を変えてみるとより分析ができる。

平成29年度　学校評価報告書（まとめ）

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価（主な評価）
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
西紀小学校	ともにわかる喜びが実感できる子の育成 ～地域とともに　心豊かに　たくましく～	（保護者・地域との連携）地域とともにある学校 ・地域の生産者の方々や関連機関の協力を得て、農業生産活動や環境体験学習を充実することができた。地域行事の積極的な参加に結びついた。 （保護者・地域との連携）篠山の教育推進 ・「にしきをかざる」活動をはじめ、ふるさと篠山を学ぶ学習活動を展開できた。 （保護者・地域との連携）情報の発信 ・ホームページの更新や学校だよりの発行により、教育活動を広く発信することができ、地域からも高評価を得た。	（安全管理・健康管理）職員の健康管理、業務改善 ・定時退勤日の励行には努めることはできたが、一部の教員に課題を残した。	（安全管理・健康管理）職員の健康管理、業務改善 ・管理職が率先して一斉退勤に取り組むことで、業務改善を図りたい。	・学校経営方針及び重点目標は適切に設定され取り組まれている。 ・個に応じた丁寧な指導が見られ落ち着いて学習に集中できている。 ・子どもたちの元気な挨拶があり、心の成長が見られる。 ・育友会の「明るい1日の始まり運動」や下校見守りの際の子どもたちの挨拶が温かく素晴らしい。 ・「にしきをかざる」の実践が充実している。 ・今後も明るく温かい学校づくりを期待する。
西紀北小学校	夢に向かって目標を持ち、未来の創り手となる北っ子の育成	（学力向上）算数科を中心とした授業研究と新教育課程に向けての校内研修の充実 ・算数科を中心とした授業改善、また、伝え合いタイムでの話し合い活動を通して、深い学びに導くことができた。・新教育課程に向けての研修を実施し、教職員の資質向上を図った。 （生徒指導の充実）豊かな心の育成といじめを許さない集団づくり ・月2回の実態把握交流、生徒指導委員会の定例化、関係機関との連携を図ることができた。また、地域一体型の行事等を通じて子どもの見守り体制の確立が図れた。・学級担任が児童とじっくりと話をする機会を設け、内面理解に努めることができた。 （地域とともにある学校づくり）地域一体型の行事の充実 ・ふれあい運動会、楽市・楽座、北っ子広場等、学校地域一体型の行事の実施を通して、草山地域活性化の一翼を担った。 （地域とともにある学校づくり）ふるさと教育の充実 ・草山地域の豊かな自然や地域の教育力を活用したふるさと学習を通して、郷土愛、愛校心を育んだ。今年度は、「復活ビーンズサワー大作戦」を試み、地域に発信することができた。			・小規模校、少人数、複式学級の良さを生かし、児童一人一人の特性をしっかり理解した上で適切な指導がなされている。 ・基本的生活習慣の確立や規範意識は、学校と家庭、地域が一体となって培っていくことが大切である。 ・西紀北小の卒業生が中学校や高校の生徒会でも活躍している姿を見ると、とてもうれしく思う。 ・伝統的体育行事「体育発表会36年」「縄跳び記録会42年」は、子どもたちが自信をつけるとても良い機会であり、特色ある活動でもあり、草山地域の自慢でもある。今後もぜひ継続していただきたい。 ・草山地域に子どもの元気な声が聞こえることが地域の活性化につながっている。学校地域一体型の行事は地域住民も子どもたちも楽しみにしている。
大山小学校	夢をもち　心豊かに　自立する　児童の育成	（教育課程・学習指導）地域素材を生かした教育展開 ・地域人材、地域素材の発掘、活用を通して、大山小ならではのカリキュラムを展開することができた。 （生徒指導）基本的生活習慣の確立 ・児童自らが挨拶できるよう、児童会を中心に挨拶運動に取り組めた。学校全体での取組が大切である。 （地域連携）地域とともにある学校 ・外部講師を積極的に招聘し、効果的な学習を行うことができた。地域アドバイザーにより、学校と地域をつなぐカリキュラムの構築が図れた。	（教育課程・学習指導）キャリア教育の視点	（教育課程・学習指導）キャリア教育の視点 ・キャリア教育の視点に立って、授業や行事に取り組むとともに、児童にとって身近な「生き方」について、話を聞く機会をつくる。	・学校経営方針及び重点目標は、適切に設定されている。 ・教育や子どもに係る課題はたくさんあるが、学校があまりにも多く抱え込んではいけない。そのためにも、家庭や地域、期間、団体との連携が必要である。 ・自尊心や自己肯定感の向上には何よりも大人の言葉かけが大事である。その取組が出来ている。 ・地域の協力を得ながら、地域の歴史、文化、特産物等を子どもたちに継承していくことが学習を通してできていると思う。 ・教職員、保護者、地域が今まで築いてきた大山小学校の良き伝統を今後の教育に生かしていただき、将来のある子どもの成長を願って、元気で明るく素直な人間として小学校の6年間を教育、指導していただきたい。
味間小学校	～笑顔いっぱい　夢いっぱい～ ・夢を抱き、自立して未来に挑戦する児童の育成 ・ふるさと味間を愛し、誇りに思う児童の育成	（保護者・地域との連携）地域とともにある学校 ・農業生産者や関係機関の協力を得て、ふるさと教育に積極的に取り組めた。 （保護者・地域との連携）情報の発信 ・学校だよりの発行や学校ホームページの定期的な更新により、学校教育活動を広く知らせることができた。	（教育課程・学習指導）学習規律 ・味間小「学習十の約束」を作成し、学校全体で学習規律の徹底に取り組んだが、指導者にも温度差があり、十分とはいえない。 （生徒指導）基本的生活習慣の確立 ・自分からあいさつができる児童を目指しているが、なかなかできない児童がいる。 （安全管理）安全指導 ・「自他の命を大切にする」をあらゆる機会を通じて指導してきたが、廊下を走る児童がいるなど、まだまだ安全意識は低い。	（教育課程・学習指導）学習規律 ・取組の徹底と保護者への周知を進める。 （生徒指導）基本的生活習慣の確立 ・教師自ら元気な声掛けや挨拶の意味を伝える等、繰り返し指導を継続する。 （安全管理）安全指導 ・生活安全、交通安全などについて具体的な事例をあげて指導の充実を図る。	・先生方が、登校指導だけでなく、下校時にも引率していただいている。ありがたい。 ・交通当番の子が、校通旗を上手に使って誘導し、渡り終えたら、止まった自動車に向かって頭を下げている。きちんと指導されていて嬉しい。 ・地域に優しく、自分たちに厳しい評価になっている。 ・5月には校長先生から学校目標や学校経営方針、子どもたちにつけたいが、具体目標などを提案していただき、1年間取り組んでもらった。10月には授業も見せていただき、しっかりやってもらっていると思う。 ・今年の評価での改善策を次年度に活かしてほしい。

平成29年度　学校評価報告書（まとめ）

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価（主な評価）
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
城南小学校	『こころ豊かにたくましく生きる力の育成』 こころ豊かに将来をたくましく切り拓いていく力を培い、安全・安心な学校づくりを進め、夢や目標を持った自立した児童を育成する。	（学習指導の充実）学び合い活動を取り入れた授業の確立と推進 ・1年間研修で算数の授業に効果的な学び合い活動を入れた授業改善に取り組み、市内に発表した。 （保護者、地域との連携）地域とともにある学校づくりの推進 ・学校運営協議会「城南っ子応援隊」の取組を通してふるさと学習を推進した。また、高齢者大学との交流事業、夏の地域行事にも取り組んだ。ホームページ、学校だよりの全戸配布等で、学校や児童の様子を発信した。 （保護者、地域との連携）安全・安心な学校づくりの推進 ・安全点検、防災訓練を計画的に実施し、学校運営協議会と連携して取組を進めた。生徒指導や保険指導を通して、けがの件数も前年度と比較して減少した。	（生徒指導の充実）学習規律・基本的な生活習慣の定着	（学習指導の充実）学び合い活動を取り入れた授業の確立と推進 ・他の教科での学び合いや、話すスキル、基礎となる学力や考える力をさらに育てることで、自分の考えを持ち、対話により友達と学びを深める子を育てたい。 （生徒指導の充実）学習規律・基本的な生活習慣の定着 ・学級指導や児童会週目標、校内掲示、全保護者への説明等で、敬語や正しい言葉遣い、あいさつ、5分前行動等、集団生活の規律を整える取組を継続して進める。 ・「城南っ子のくらしのルール」はPTAとの意見交換等で共通理解を図る。	・研究会や参観、今回の学校自己評価からも、しっかり子どもたちの学力が向上するように取り組んでいただいていることが理解できた。さらに自分のための勉強ができる子にしっかりと育ててほしい。 ・幼稚園と小学校の連携を大切にしてほしい。 ・ふるさと学習の拠点として「アグリステーション」の活用や地域での学習が定着してきた。親子での活用もさらに広げていってほしい。 ・学校に行けずホームページを見られない方には、全戸配布の学校だよりは助かるし、学校の理解にもつながるので続けてほしい。 ・行事等で学校に来ると、温かなおもてなしの気持ちが伝わってきて、子どもたちの表情も明るく、全体的な雰囲気がよくなったと思う。 ・共働き家庭が多く、学校・学童クラブに学習習慣を委ねておられ、責任は大きい。家庭との連携をしっかりとることが大切だと思う。 ・挨拶のできる子が増えて喜ばしい。まだ、言葉の乱れは気にかかる。家庭連携と共に教職員も率先して挨拶や正しい言葉遣いが出来るようになってほしい。
古市小学校	〈　こころ豊かで自立した児童の育成　〉 安全・安心な学校づくりを着実に進め、広げ、 こころ豊かで自立した児童を育成する。	（学校経営（安全・安心な学校づくり））安全学習、安全指導 ・児童の危機回避能力の向上をめざした安全教育を全学年実施した。（研究授業 年7回） （学校経営（安全・安心な学校づくり））いじめのない安心な学校づくり ・いじめ問題に係る意識向上を図り、迅速な組織的対応を通して、いじめ事案100%の解消を図ることができた。 （学習指導・学力向上）丁寧で分かりやすい授業 ・学習規律の定着と指導方法の工夫改善を図り、丁寧で分かりやすい授業づくりを進めた。 （学習指導・学力向上）個に応じた指導 ・少人数指導、複数指導、スキルタイムの充実により、基礎基本の定着が図ることができた。 （生徒指導）活気があり楽しい学校 ・自尊感情を育む学級経営により、学校・クラスとも活気があり楽しいという高評価を得た。 （生徒指導）家庭と連携 ・配慮を要する事項については、家庭と情報を共有しながら対応について連携が図れた。		（生徒指導）活気があり楽しい学校 ・挨拶は粘り強い指導が必要である。	・古市小の最重点課題である安全な学校づくりは、「知・徳・体」の基本であり普遍的なもの、教育の基本なので、保護者・地域との連携のもと今後も大切にしたい。 ・どの学年も、先生と一緒になってよい雰囲気で学習に取り組んでいる。教室も整理されていて集中できる学習環境となっている。基礎基本とともに、「やる気（意欲）」を育ててほしい。 ・「ふるさと教育」と合わせて様々な体験活動を進め、豊かな心を育んでほしい。田畑で仕事をしていると、大きな声であいさつをしてくれる子がいて元気をもらう。 ・新学習指導要領の実施に伴い、外国語や道徳の教科化が始まると、学校が益々多忙化し今の安全な環境が保たれないことが心配される。余裕を持って安全安心な学校づくりを進めるためにも、行事等削減できるものは今から段階的に削減を進めてはどうか。 ・地域と共にある学校づくりを進めるために、オープンスクールには地域の方に多数来校していただき、子どもたちの頑張りを見ていただきたい。
今田小学校	「ふるさと今田を誇りに思い、 自立して未来に挑戦する今田っ子を育成する」	（地域とともにある学校づくり）学校運営協議会との連携 ・年4回の会合を持ち、主催事業の「ふるさと講演会」（今年度は「日本遺産伝承教室」）を実施することができた。 （地域とともにある学校づくり）地域人材の活用とふるさと教育 ・「サギソウ栽培」「作陶活動」「黒豆栽培」等で地域人材を活用し、特色あるふるさと教育が展開できた。 （生徒指導の充実）生徒理解と組織的な対応 ・生徒指導委員会を定期的に開催し、児童の情報交換や指導の方向性を確認し、全職員で共通理解が図れた。 （生徒指導の充実）児童の規範意識の向上 ・朝会や道徳の時間を利用した全体指導と個々の事案に対する個別の指導を丁寧に行い、規範意識の向上が図れた。また、児童会を中心に「安全見守り隊」の活動を行うなど、主体的な活動が見られた。			・学校運営協議会が主催した「ふるさと講演会」（日本遺産伝承教室）が実施できた。よい取組で児童にも好評だった。やはり本物を見せることが大切である。 ・学習指導について、先生方の授業や学習指導以外の業務が多くなっている状況があるのなら、精選していくことも必要である。 ・数は少ないが、学校に行くのが楽しくないと感じている子がいる。そういった児童にも寄り添っていくことが大切である。 ・スマートフォン等の所持率は高くなってきているのだろうか。使い方等について心配もある。 ・子どもたち自身は挨拶をよくしていると思っているようだが、もう少し積極的に地域でも挨拶をしていけるようになってほしい。

平成29年度　学校評価報告書（まとめ）

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価（主な評価）
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
篠山中学校	自ら学ぶ力、温かい心、たくましさを持って生きる生徒の育成	（道徳教育）いじめの未然防止、早期発見、早期対応 ・「いじめアンケート」、教育相談、QUテストの実施、道徳の時間、学級活動等による心の耕しによって、いじめに対する生徒や教職員の意識の高揚が図れた。 （生徒指導）あいさつの励行 ・登校・下校時の各種あいさつ運動により、学校全体であいさつの励行に努めた。 （生徒指導）組織的対応 ・不登校、不登校傾向の生徒に対して、職員間の情報交換、ケース会議での検討、適応指導教室の充実、小学校との連携、「ゆめハウス」との連携を通して、きめ細かく家庭と連携した取組ができた。 （家庭地域連携）情報発信、学校運営協議会の推進、小中連携 ・学校だよりをはじめ、各種だよりの発行、ホームページの更新を通して、保護者・地域への広報活動を積極的に行った。 ・学校運営協議会を通して、意見聴取をはじめ、環境美化活動や花いっぱい運動を行った。 ・小中連携を通して、研修会や出前授業、入学説明会など、相互理解に努めた。		（道徳教育）いじめの未然防止、早期発見、早期対応 ・今後も生徒会や学級会を通じて生徒自身が考え行動する態度を養っていきたい。	・学校の課題が網羅されており、重点目標は妥当である。各重点目標については、アンケート等を通して、丁寧に分析・評価がなされている。 ・トライやる・ウィークでは、生徒は目を輝かせて取り組んでいる。これを学校の教育活動に活かしてほしい。 ・アンケート結果を見る限りでは、生徒や保護者は学校に対してやや甘く職員は自らに厳しい評価をしている傾向にある。 ・トライやる・ウィーク等の取組によって、間違いなく学校、家庭、地域のパイプは太くなっている。学校にとって、保護者や地域は大きな支えであるので、より連携を密にしてほしい。
篠山東中学校	「自信と誇りを持ち、こころ豊かでたくましい生徒の育成」 ひらく！　～心　道　花　地域～	（学習指導）共同学習の取組、個別の学習支援 ・生徒、保護者にも浸透し、本年度は教科以外の道徳、学活、総合的な学習の時間にも実践を広げることができた。 ・休み時間や木曜日の放課後等を利用し、個別に学習支援を行うことができた。 （道徳教育）道徳の授業の充実、地域教材の開発 ・年3回の校内授業研究会を実施し、対話的で深い学びになるよう研修を深めた。 ・授業に人種に係る地域教材を取り入れ、学習を深めた。 （生徒指導）組織的対応、安全点検、情報機器の取り扱い ・定期的な委員会、ケース会議を通して早期対応に努めるとともに、小中連携、関係機関との連携を密にした。 ・毎月の安全点検、交通指導、生徒への安全啓発を確実に行った。 ・生徒会の「情報機器取り扱い宣言」の徹底を図った。 （家庭地域連携）学校運営協議会の推進、小中連携 ・学校運営協議会主催で「創立20周年記念事業」を実施した。 ・小中交流・研修会、出前授業等により、小中の情報交換を進めた。	（業務改善）ノー会議デー、ノー部活デー、定時退庁の完全実施 ・前年度に比べ少し改善された。	（学習指導） ・めあての提示や振り返りはしているが、理解度のチェックまでは至っていないため、その点について強化する。 ・家庭学習においては、時間だけではなく内容の充実に取り組んでいく。 （業務改善）ノー会議デー、ノー部活デー、定時退庁の完全実施 ・勤務時間の適正化のさらなる推進に向けては、大幅な業務改善が必要であり、具体について検討を進める。	・重点目標として妥当である。重点目標は学校だけの課題ではなく、家庭や地域の目標としてとらえて取り組みたい。 ・学校は、保護者や地域への啓発をしてほしい。 ・地域との連携は、先生方にもっと余裕がなければ難しいと考える。だからこそ、学校が主となってすること、地域が主となってすること、このすみ分けをきちんとすることが、お互いの負担軽減につながると思う。 ・「ふるさとを誇りに思うか」は、保護者や地域住民の子どもに対する接し方で変わってくると思う。保護者の情操教育にも期待する。
西紀中学校	基礎力・思考力・実践力をもち、磨き合って共に自立に向かう生徒の育成	（学習指導（授業改善））主体的・対話的で深い学び、学習支援 ・教科係によるリーダー学習、各授業の予習学習、振り返り活動に取り組んだ。タブレットが導入され、授業での活用を図ることができた。生徒の自信や主体性の伸長につながった。 ・少人数授業やがんばりタイム等、個別の支援を充実できた。 （生徒指導（情報モラル））いじめの早期解決に向けた取組、情報機器の取り扱い ・いじめを積極的に認知し、早期解決を図ることができた。アンケート結果をもとに、速やかに教育相談を行うことができた。 ・今年度新たに「いじめ0宣言」を作成することができた。 （コミュニティ・スクール、業務改善）学校運営協議会、四つの力委員会の推進 ・学校運営協議会の活動が活発になり、地域とのつながりが強まった。ボランティア、地域貢献活動等の教職員の引率等負担軽減となった。 ・コミュニティ・スクールに生徒が参加し、意見交流を通して主体的に活動できるしくみづくりができた。地元で活躍する若い世代との交流や地域貢献を通して生徒の愛郷心高揚が図れた。	（キャリア教育）教育活動全体を通じたキャリア教育の推進 ・1年生から3年生まで、系統立ててキャリア教育に取り組めるようにする。 ・年間を通して、キャリアノートの有効活用を図る。	（生徒指導） ・学校全体で情報を共有すべきことが、各学年で止まっていることがあった。情報共有の徹底を図るよう、具体策を検討する。	・地域貢献活動に多くの生徒が参加していることを大変評価していただいた。「生徒が本当に素直であり、地域の人や関係機関とコミュニケーションをとっている。」「有害なアプリ等に対し、啓発をしながら見守っていきたい。」などの意見をいただいた。積極的に授業公開を進め、対話について成果を上げていることを評価いただいた。次年度の改善の柱としては、以下の4点である。 1　自分がやりたいことを意思表示できる生徒が増えている。西紀中学校が取り組んでいる地域貢献活動を整理してキャリア教育につなげたらよい。 2　評価項目も高く、先導的に取り組んでいる。学習習慣の定着の観点から、長期休業中に地域や大学生が学習補充の支援をできたらよい。市の環境整備もあるが、化石など地域教材を生かした学習にも取り組んでもらいたい。 3　何事にも一生懸命取り組む姿が見られ、生徒が落ち着いて生活しているのがわかる。有害アプリから子どもを守る取組を青少年健全育成協議会などと協力して進めていく必要がある。 4　PTCAフォーラムでの生徒の発表で、長年のボランティアの取組に評価をいただいた。ボランティアの取組を生かし、今後も自主性、主体性を育んでいければと思う。
丹南中学校	確かな学力をもち、自己実現に向かう こころ豊かな生徒の育成	（学習指導）ICTの効果的な活用を通した主体的な学びの充実 ・反転授業や予習を中心とした授業を実施し、生徒が学ぶ楽しさを感じたり、生徒が説明する力をつけるような授業が展開できた。 ・ICTの活用により、学習意欲を高め理解力の向上を図ることができた。 （学習指導）基礎・基本の徹底 ・プリント学習や小テストの実施により、個のつまずきを把握し基礎基本の定着を図ることができた。全教職員が授業研究を行ったことや互いに授業を見学できる雰囲気づくりに努める等、指導力の向上を図ることができた。 （生徒指導）集団づくり ・行事等でリーダーを中心として、自分たちで企画運営する力を養い達成感と充実感を体感させることができた。ボランティア活動等、地域行事に積極的に参加した生徒が、自らが地域に必要とされていることを体感できていた。		（生徒指導）いじめ対応 ・事案に対する記録については、適切に残すことを徹底し、教職員の共通理解を図っていく。	・11月の研究発表会に参加したが、全国的に発信のできる大変よい取組をなされていて、生徒が生き生きと実験等に取り組んだり、ディスカッションしている姿は素晴らしかった。次年度以降も、この取組は継続していってほしい。 ・授業参観では、難しい学習にもしっかりと取り組んでいて、大変落ち着いて生活ができている様子が見られた。 ・行事等の参観を通して、多くの生徒が一生懸命に取り組んでいる姿に感動している。 ・予習動画は大変工夫されていると聞いている。学力の向上に向けて、授業改善等さらなる取組を期待する。 ・大変良い取組ではあるが、予習動画の準備等で教職員が遅くまで勤務されているのではないかと心配している。今後は無理のないところでの継続を期待する。 ・学校の施設環境については大いに改善の余地がある。

平成29年度　学校評価報告書（まとめ）

学校名	学校教育目標	学校自己評価			学校関係者評価（主な評価）
		成果がみられる項目	課題のある項目	今後の改善方策または充実方策	
今田中学校	主体的に学び　自己実現に向かう　こころ豊かな生徒の育成	（生徒指導の充実） ・情報機器利用マナー指導の充実（SNSをめぐるトラブルの未然防止を徹底する） ・情報機器端末に関する外部講師による講演会を定期的に実施することによって生徒の意識が高まり、SNSをめぐるトラブル等の未然防止につながった。	（学力向上）話し合う活動の充実、学習習慣の確立	（学力向上）話し合う活動の充実 ・話し合う活動は軌道に乗りつつあるが、今後は今田中スタイルを確立し、自分の考えをしっかり発表できる力を育成することが重要である。 ・少人数の利点を生かし、個々の生徒の特性に応じた学習方法の指導を継続していく。	・教育相談及び組織的な生徒指導体制が確立されることにより、いじめや問題行動の早期発見・早期解決につながっている。 ・コミュニティ・スクール事業が地域・保護者・学校をつなぐ取り組みとなっている。特に創立70周年記念人文字空撮や記念品配布は地域の方々の中学校への関心を高めるよい機会となった。 ・生徒たちが気持ちのよい挨拶をしてくれる。よき伝統になりつつある。 ・ボランティア活動にも積極的に参加し、地域に貢献しようとする意識が高まっている。 ・少人数の学校ではあるが、様々な行事の際に心を合わせて若い力の輝きを見せてくれている。生徒たちの頑張りが地域に活力を与えると感じた。
篠山養護学校	夢と希望を抱き、心豊かにたくましく生きる子の育成 ～元気な子ども　元気な先生　元気な学校～	（学校運営）情報の発信 ・定期的な学校だより、学部通信、保健だより、進路だよりは保護者から好評であった。 （キャリア教育）発達段階に応じたキャリア教育の推進 ・「つけたい力」リスト、「チェックシート」の作成、社会参加型の体験学習、作業学習の導入は高評価を得た。	（学校運営）情報の発信学校運営 ・学校のホームページの充実については、個々の希望もあり課題を残した。 （学校運営）学校評価の取組の充実 ・評価方法や項目を見直し、改善することはできたが、課題や改善策を次年度にどのようにつなげていくかには課題を残した。 （生徒指導）自立に向けた生活習慣の確立 ・早期対応の生徒指導に取り組んできたが、結果的に解決に至らなかった。	・（学校運営）学校評価の取組の充実 ・評価方法や評価項目の見直しを図り、課題や改善策を次年度につなげていく。その点において、教職員の意識改革を図る。 （生徒指導）自立に向けた生活習慣の確立 ・解決に至らなかった事案については、幼児の特性や保護者のニーズを踏まえ、指導の充実を図る。	・学校教育目標・重点目標を中心に、学校の方針が良く分かり、地域や保護者からも多くの前向きな評価が聞こえてくる。今後の取組の充実を期待する。 ・3ヵ年計画への取組は大いに評価できる。特にキャリア教育への取組は素晴らしい。 ・幼児児童生徒・教職員とも、来校者への明るい挨拶と対応は、非常に好感が持てる。また、学校行事や地域行事等から、教職員と幼児児童生徒との良好な関係が伺える。校長・教頭のリーダーシップのもと、様々な教育活動に対して、組織的な取組が出来ているのが、側面から感じられる。 ・様々な行事や校外学習での教職員の表情や態度から、意欲の高さを感じ目事ができる。 ・昨年度課題であった、進路フォーラムや進路相談会に保護者や地域を巻き込んでいること、キャリア教育の充実及び卒業後の出口の開拓には、素晴らしい成果が表れている。 ・教職員が忙しすぎるのでは…？教職員のメンタルヘルスには気を付けてほしい。また、校内組織の簡素化やスリム化にも取り組んでいただきたい。 ・不審者等の来訪に対して、防犯カメラの設置は効果がある。 ・PTA活動において、組織や事業内容の検討は、今後の課題である。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立篠山小学校
校長　藤本　健

兵庫県篠山市立篠山小学校長之印

1　学校教育目標等

「こころ豊かで　進んで学ぶ　ふるさと大好き　ささっ子」の育正

2　今年度の重点目標

①算数科の授業をとおして教師の授業力向上をめざし、校内研修の充実を図る。（教科指導）

②児童同士の些細なトラブルに対しても迅速かつ的確に指導を入れるなど、早期対応に対する意識の向上を図る。（生徒指導）

③仕事と家庭のバランスを意識するなど勤務時間の適正化に努める。

3　学校自己評価結果

（達成状況・・A：よく達成できた　B：達成できた　C：やや課題が残る　D：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学校経営	①地域とともにある学校づくりの推進 ・学校だより、学級通信、HP等により教育活動を発信できたか。	A	○毎月の学校だより（全戸配布）毎週の学級通信、ほぼ毎日のHP等で、学校の取組状況を発信している。地域の方から学校だよりを楽しみにしているという声が聞けるようになった。 ⇒学校だよりは、学校が一方的に出しているので、地域の方が記載してほしい内容を聞き取る必要がある。 ⇒学級通信は、ややもすると出来事の羅列になっているときがあるので、学級目標の実現に向けての取組内容やその過程を記載していかなければならない。
	②ふるさと教育の充実 ・地域人材を活用するなど、ふるさと教育に取り組む事ができたか。	A	○各学年において老人会、ディスカバー、地域活動栄養士会、町づくりの会等々の協力を得ながらふるさとの特色とそのよさに気づくことができた。特に「お城ガイド」は、児童に大変好評である。 ⇒行事の目的を達成するため、単発で終わるのではなく、事前指導と事後指導を充実させなければならない。
学習指導	①授業力の向上 ・児童同士の発言のやりとりや教師の発問、板書は適切であったか。	B	○講師を招き算数科の研修を実施してきた。単元のとらえ方や授業の在り方等、基本的な内容まで教えていただき、指導力の向上に繋がった。 ⇒経験が浅い教師もいるので、同僚からアドバイスをもらいながら日々研鑽に努めさせていく。 ⇒授業は、児童同士の聞き合いにより成立する。その基本を徹底させる。
	②生活リズムと家庭学習 ・基本的生活習慣と家庭学習の確立ができたか。	B	○低中高学年ごとに就寝時間の徹底と家庭学習の習慣化を通信等で発信している。家庭の協力もあり概ね良好な状況である。 ⇒夜遅くまでゲーム機に夢中になっている児童、朝ご飯なしで登校している児童も存在している。家庭訪問で保護者と直接話をするようにしている。今後も継続が必要である。
	・家での読書の時間が確保できたか。	C	○家での読書時間の差があり、本校の課題でもある。 ⇒中央図書館作成の読書手帳を活用し、意欲の向上に繋げる。

生徒指導	・教職員全体として生徒指導に取り組む体制が整備できたか。	B	○児童の内面に対する共感的な理解を深めること、人間的なふれ合いを大切にすることの２つの観点が指導の基本であると全職員が認識できている。 ○各週金曜日の放課後に学団会議を開き、気になる行動等がなかったかを話し合う時間を設定した。 ○職員⇒生徒指導担当者⇒管理職の情報ラインが確立し、場合により即座に委員会を開くことができた。 ○些細なトラブルでも迅速に対応する等、タイミングを逃さないという意識が向上した。 ⇒生徒指導といえば、負のイメージがあるが、児童の好ましい行いも職員会議等で職員に伝えていくようにする。 ○今年度、欠席が３０日を超える児童が数名いる。当該児童に対しては、ＳＣからの保護者情報の聞き取り、学校と保護者との面談、ゆめハウスとの情報交換等、解決策について連携を密にとることができた。
	・家庭や相談機関との連携に努めることができたか。	B	⇒学校と家庭との接続を切らさないよう、家庭訪問をとおして保護者や児童と繋がっていくようにする。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

・算数科の研究を今後も継続してほしい。３年生から４年生に上がったとき急に算数が嫌いな子どもが出てくると以前どこかで聞いたことがあるので、気をつけてほしい。
・算数科が好きになったという児童出てきたのが望ましい。
・児童生徒のトラブルはどこでも起こりうるものだと考える。早期対応が原則なので、その場で指導を重ねていくのが鉄則ではないか。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・学校園だよりを読むのを楽しみにしているという地域の声を聞くことがある。また、ＨＰも毎日のように更新されている。学校での出来事がよくわかり今後も積極的に発信していただきたい。
・家での読書の時間が少ない。小学校時代から読書の楽しさや面白さを教えていただきたい。
・地域素材が豊富な所なので、ふるさと教育の更なる充実に努めてほしい。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校経営	○学校園だよりやＨＰ、また各学年学級通信等、きめ細かく情報を発信していただいている。学校での活動の様子がよくわかり、見るのを楽しみにしている。今後は、地域の情報を学校に提供し、学校側がＨＰ等で流していただくなど、学校が情報発信の核となるような取組も始めてはどうだろうか。 ○ふるさと学習に１年生から６年生までよく取り組まれている。地域で活躍している人も大勢いるので、気軽に声をかけていただきたい。 ○６年生が取り組んでいる「お城ガイド」は、観光客にも大変評判がいい。地域の文化を知るよい取組である。今後も継続してほしい。
学習指導	○低中高学年それぞれ就寝時間が決められていて、数年来取り組んできているようだが、守っている家庭とあまり守られていない家庭とがある。学校便り、学級懇談、ＰＴＡ総会などの時に啓発していただきたい。 ○放課後児童学習支援として、地域人材を活用する取組があるが、豊富な人材を活用していただきたい。 ○毎月２３日の「家読の日」の取組は定着しているようだが、日常においての読書の習慣は身についていないようだ。本をよく読む子は心が安定している。粘り強い取組を期待している。
生徒指導	○携帯電話やゲーム機、スマートフォン等、情報機器を使用している児童の割合が年々高くなっている。それにより、脳が刺激され興奮状態となり寝るのが遅くなるという悪循環が心配である。 ○情報モラルがますます要求される。家庭と学校が一体となってモラルの向上に努めてほしい。 ○交通当番で横断旗を持って交差点に立っていると、遠いところから朝の挨拶が聞こえてくる。その地区はだいたい決まっているが、元気のよい挨拶が他の交通班にも少しずつ広がっていけばいい。 ○家庭の諸事情もあると思うが、欠席が多い子どももいる。地域においても見守っていきたいと思っている。 ○各週金曜日に職員同士で児童の情報交換会をされているが、皆さんが児童についての情報を共有することは、とても大事なことと思う。 ○地域の情報で気になる児童の行動などが分かれば学校に一報を入れるなど、学校と協力していきたい。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立　八上小学校
校長　松　笠　勝　也

兵庫県篠山市立八上小学校長之印

1　学校教育目標等

夢や目標を持ち、自立して学び続ける児童の育成
（1）自他を愛し、思いやりの心と奉仕の精神に満ちあふれた子の育成
（2）自分の学び方を身につけ、自ら考え、意欲的に学び続ける子の育成
（3）心と体を鍛え、健康でたくましい体力を備えた子の育成

2　今年度の重点目標

（1）夢や目標をもち、自立して未来に挑戦する児童の「生きる力」を育む。
（2）確かな学力の育成をめざし、自ら学び自ら考える授業を創造する。
（3）児童が持っている良さや可能性を引き出し、望ましい生活習慣の定着を図る。
（4）保護者・地域との連携を深め、ふるさと「八上」に根ざした地域とともにある学校づくりを探求する。
（5）安全安心な学校づくり・学級づくりを基盤とした、豊かな人間関係と人権感覚を育成する。
（6）体育やスポーツ活動の楽しさや喜びを味わわせ、体力・運動能力の向上を図る。

3　学校自己評価結果

（達成状況・・A：よく達成できた　B：達成できた　C：やや課題が残る　D：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
キャリア教育	将来の自分や夢について考えたり、目標をもって日々の生活にとりくんだりすることができたか。	B	キャリア教育のねらいや取組について、引き続き保護者への啓発、ていねいな説明が必要である。そのため、学校便り等で説明をするとともに、キャリアノートを持ち帰り、保護者が取組を知る機会を設ける。
学習指導	授業において、児童の課題にあったていねいな指導をし、基礎・基本を定着させることができたか。	A	複数指導によって児童の困り感や課題をみとり、教師間で共通理解をはかって、きめ細やかな指導に生かしていく。
	授業において「めあて」「まとめ」を意識させ、児童が見通しをもって学習できるようにしているか。	A	児童の中でも定着してきている。振り返りは、子どもの言葉でまとめることを大切にする。また、発達段階や学習内容に応じて予習を取り入れる。
	話し合う活動を計画的にとりいれるなど、学習形態を工夫し、学び高め合う学習指導にとりくめたか。	A	説明したり表現したりする力は伸びてきている。今後も、気軽におたずねができる学級づくりをおこない、聞き返しできる能力を育てていく。
生徒指導	「八上小学校いじめ防止基本方針」に基づいて全職員でとりくみ、「いじめ」の未然防止、早期発見、早期対応を行ったか。	B	組織的に指導に取り組み、早く解決に導くことができた。今後も、学校教職員が多くの目で児童の様子をみとり、情報を共有しながら未然防止、早期発見に努めていく。
	児童に考えさせ、児童自身が主体的に取り組む児童会活動や学級活動が行われているか。	A	児童は活発に活動しているが、児童会、委員会の活動が、教職員やPTAの補助活動になっている部分がある。創意工夫して、自分たちでよりよい学校にしていく活動ができるように考えていく。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

・いじめ問題については、スマホ等の正しい知識など犯罪に巻き込まれない教育を進めてほしい。保護者もいろいろな情報を知る必要がある。
・八上小は人権朝会を実施し、人権だよりを発行している。このまま、人権の基盤を大切にしてほしい。LGBTについては、いじめや自死につながることがある。人権課題の１つとしてとりくんでほしい。制服が選べるところや、更衣室が整備されているところ、男性のトイレが個室のところもある。施設面は厳しいが、そこを何とかカバーできる方向にむかってほしい。世界が変わってきているので、学校も対応していってほしい。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・１０年ほど前に地域と学校で規模の大きい防災訓練をおこなった。炊き出し、煙体験などをおこなった。今後、また実施できればうれしい。
・学校が避難所になっているため、エレベーターの設置、スロープの設置などを含む施設のバリアフリー化が必要である。
・教職員の業務改善が進んでいることがうれしい。たくさん取組をされたのだと思う。自分が決めた時間内に仕事をすることも大事である。健康管理も大切。教師が健康を害したら児童にも保護者にもとっても大変であることを知っていただき、業務改善を今後も続けていただきたい。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
キャリア教育	・八上小には、「名人に弟子入り」など、キャリア教育に関する独自のすばらしい取組がある。今まで培ったものも生かし、今までのとりくみに自信をもってやってほしい。地域の方々とのふれあいの中で学ぶものがたくさんある。 ・小学生の間は、実際に「ほんもの」に触れる体験を大切にしてほしい。
学習指導	・米作り、黒豆づくりなどの体験の際、子どもたちは生き生きしている。収穫の達成感も大きい。これからも体験を大切にしてほしい。そのためにも地域として、もっと子どもたちと触れ合う機会を大切にしたい。学校だけではなく、地域主体でもやってはどうかと考えている。 ・子どもたちが生き生きと取り組み達成感を十分に味わえるような学習を、いろいろな教科のなかでも実践していってほしい。 ・オオムラサキ、ゴマダラチョウの幼虫を４年生が採ってきていた。八上で採れたことがうれしい。ぜひ育ててほしい。
生徒指導	・あいさつをよくしてくれた。運動会などで会ったときに、大きな子があいさつをしてくれて、それを周りの子が真似をして、元気なあいさつをしてくれた。６年生のリーダーシップがよかった。 ・元気にあいさつをする習慣も大事だが、子どもの雰囲気で、家で何かあったのか、体調はどうかなどもうかがうこともできる。あいさつがよくできていないときは、子どもの内面変化や体調不良があるかもしれないので、気をつけていただきたい。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立城北畑小学校
校長　　源　浩

兵庫県篠山市立城北畑小学校長之印

1　学校教育目標等

「共に学ぼう　より深く　　共に歩もう　力を合わせて　　共に伸びよう　たくましく」

2　今年度の重点目標

◎知識基盤社会に対応する「確かな学力」を育成するため、基礎・基本を習得し、思考力・判断力・表現力等の活用する力、探究する態度を伸ばす。
◎総合的な学習の時間や外国語活動等の新たな課題の指導の充実を図る。
◎児童の道徳性を養い、「豊かな心」「人権を尊重する態度」「規範意識」を育成する。
◎家庭・地域とともにある学校を目指して、その信頼に応える。

3　学校自己評価結果

（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	・児童一人一人に自分の考えを持たせ、対話活動を充実させることで共に高めあう授業作りに取り組む。また、授業スタンダードの確立を図る。	A	・校内研修会を年間１６回（内、外部講師を３回招聘）行いペア・グループ学習、全体交流で伝え合うことの充実が図れた。また、教科化に向けた外国語教育の授業作り、教材開発に努められた。
	・活用力の育成を目指して、ふるさと教育に取り組む。学習タイムに取り組むと共に、保護者と連携して学習基盤形成を図る。	B	・俳句づくり・地域素材の教材化に努め、特色ある教育を展開した。また、朝の学習タイムの充実や家庭学習の内容の充実、習慣化が図れた。
生徒指導	・児童の道徳性を育成するために、地域と連携してのあいさつ運動や人権安全朝会、人権参観日、道徳親子感想文等に取り組む。	A	・児童会の活動と共に、コミュニティ・スクールの組織とあいさつ運動に取り組み、人権安全朝会、人権参観日、道徳親子感想文の実施等を行った。市の生活調査で、児童の「規範意識」は高いとの結果であった。
	・いじめ・暴力・不登校の防止のために、いじめアンケートに取り組み、児童への指導に活かす。	B	・年3回のいじめアンケートを実施し、その結果をもとに生徒指導委員会で組織的に対応した結果、いじめ解消率100％である。不登校については家庭事情で30日を越える児童がいるので、個別対応が必要である。
保護者・地域との連携	・開かれた学校づくりのために、学校だより・学級通信・ＨＰ等での情報発信に努める。	A	・学校だより（月1回）、学級通信（週1回以上）、ＨＰ更新（月5回以上）を行い、学校の取り組みを積極的に発信した。
	外部講師の招聘を積極的におこなったり、オープンスクール等を実施したりして開かれた学校づくりを進める。	B	・オープンスクール等で学校の様子を積極的に公開できた。地域講師を招聘し、地域との連携にも努めた。また、アンケート調査を実施し、保護者・地域の方々の意見を聴取するよう努めた。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

・小学校生活の中心である学習についての目標と、今の児童の実態に合わせた道徳性や心を育てるための目標、保護者や地域との連携の目標それぞれについて、城北畑小学校の実態や特色ある取り組みに合わせて、目標と評価目標を設定されていると思う。この目標をもとに、しっかりと城北畑小学校教育を進めていただきたい。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・小学校であいさつ運動に取り組まれている成果があり、地域で小学生がよく挨拶をしている。
・いじめについて小学校ではどのように対応されているか説明してほしい。また最近、ＳＮＳを利用していていじめに発展するケースがあると聞くがどうか。
・保護者・児童アンケートの結果を見ると７月より１１月の方が評価が高くなっている。先生方の指導の成果が表れている。
・学童保育の建物が来年度完成予定であるがどのようなものなのか。
・コミュニティ：スクールで５つのサポート事業を展開されているがさらに充実した取り組みを進めていってほしい。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	・授業参観の様子から、楽しく、元気よく児童が授業に取り組んでいる。どの学年も発表の仕方、話を聞く姿勢等、授業規律がしっかりとしていてとても良い。先生方も授業の進め方、発問の仕方等で熱心に指導されていることが伝わってきた。 ・今年度はミュージカル公演、ソーラーカー出前授業、管弦楽団のアウトリーチ活動等の体験活動の取り組み、お苗菊やクリンソウ等のふるさと学習に取り組み、学習タイム、放課後学習の取り組み等において情操的な教育や基礎基本の学習など学校の特色を活かして指導行われていることが分かった。 ・家庭学習については保護者と連携して学習基盤形成の取り組みを継続していかれていることが分かった。
生徒指導	・城北畑小学校のいじめアンケートについて、アンケートの取り方や結果の公表の仕方、最近の結果の内容、又、課題のある回答についての学校の組織的な取組内容、スクールカウンセラーとの連携体制等について、理解できた。今後も、子どもの正直な声がアンケートに反映されるよう配慮しながらの取り組みをお願いしたい。また、ＳＮＳなどの情報機器を利用してのいじめについても対策をお願いしたい。 ・児童会活動と共に、コミュニティ・スクールの組織、ＰＴＡがあいさつ運動に取り組んでいることが分かった。このことについては、大人がまず手本を示す事が大事である。今後、地域への啓発を行い連携して取り組んでいただきたい。 ・不登校児が数名いることは家庭と連携しながら、学校での生活について、安心できる学校づくりをお願いしたい。
保護者・地域との連携	・学校だより、学級通信、ＨＰ更新等に取り組んでいることが分かった。又、オープンスクールでのアンケートや年２回の学校生活アンケートを実施して、結果の公表に取り組んでいることも分かった。これからも、保護者・地域の方の意見をよく聴取しながら学校運営を行っていただきたい。ふるさと教育の指導について、地域の協力が必要なことがあれば、積極的に進めていただきたい。 ・学童保育が城北畑小学校内に来年度完成することはいいことである。今後も、子育て支援についての情報提供や相談機関としての役割をお願いしたい。 ・今年度も地域消防団と連携しての防災訓練（消火器体験、煙体験、放水体験等）を実施したことは素晴らしい。引き渡し訓練、避難訓練、登下校指導、施設点検等、保護者と地域の連携ある取り組みを進めていただきたい。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立岡野小学校
校長　荻野　孝幸

兵庫県篠山市立岡野小学校長之印

1　学校教育目標等

「やさしく　かしこく　たくましく」
～元気な子ども！元気な先生！元気な学校！～

2　今年度の重点目標

◎基礎学力の定着･向上（授業改善と学習習慣・学習方法の確立）
◎基本的生活習慣の定着（家庭との連携・凡事徹底）
◎豊かな心と自主自立の育成（道徳教育・人権教育・生徒指導の充実）
◎個に応じた適切な支援・指導（特別支援教育の充実と推進）
◎学校行事･校外学習･ふるさと教育の推進（体験学習の充実）
◎安全安心な信頼される学校の創造（学校・家庭・地域との連携強化）

3　学校自己評価結果

（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学校経営	定期的に「学校だより」・「学級通信」やHPで情報を発信できたか。	A	＊定期的に各種通信の発行が出来ている。HPでの情報提供と更新が積極的に行えた。
	学校評価への取り組みを充実させ、成果と課題、改善策の検討が図られたか。	B	＊中間評価も実施出来、全職員で取り組むことが出来た。来年度への改善策についてはまだ検討を要するところがある。
	学校運営協議会の推進を図り地域に開かれた学校づくりに取り組めたか。	A	＊学校運営協議会を中心とした事業により、地域行事に積極的に参画したり、地域の方に学校の授業や行事に参加いただいたりなど、地域の連携が深められた。
学習指導の充実	基礎的･基本的な学習内容を的確に把握・習得させているか。	B	＊「単元テスト80点以上80％」はほぼ達成できている。基礎学力向上を目指し、更なる授業改善の検討が必要である。
	算数の表現力や算数的活動、活用する力の育成に視点を置き、授業の工夫改善に取り組めたか。	B	＊授業改善を図り、活用する力の習得を目指してきたがまだ課題がある。更なる定着を目指して取り組む必要がある。
	主体的に学ぼうとする意欲や関心を高める学習活動ができているか。	B	＊研究授業を通して、主体的で対話的な授業づくりが定着しつつある。継続して取り組んでいきたい。
	計算・漢字･読書を中心に、スキルタイムの工夫改善に取り組めたか。	A	＊全校的にしっかり取り組めている。児童に意欲を持たせるための工夫がよくできている。
生徒指導の充実	基本的生活習慣や日常生活における規範意識の定着が図れたか。	B	＊具体的な目標や取組を定め、学校と家庭が課題を共有して指導に当たった結果、昨年度より規範意識の向上が見られた。
	いじめや問題行動、不登校傾向の児童に対して、組織的に早期発見･早期対応に取り組めたか。	A	＊生徒指導委員会を中心に、組織的に対応出来ている。今後もさらに組織力を高め、問題行動等の未然防止や早期発見、早期対応に努めていく。
	保護者・SC・関係機関等と積極的に連携した対策や対応ができているか。	B	＊日頃から保護者やSC、関係機関等と情報交換を行う機会をつくり、問題行動等の対応に取り組む体制がとれている。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

＊学校教育目標・重点目標は学校の実態を踏まえた適切な目標である。地域や保護者からの評価も肯定的な評価を得ている。今後も、自信を持って更に取り組みを進めてほしい。

（2）総合的な評価（意見・感想）

＊日々の教育活動において、先生方の努力、児童と向き合う姿勢、チームワークの良さに敬意を表する。
＊真摯に向き合った自己評価であると思う。もっと高い評価でも良いのではないかと思う。
＊先生方の研修の成果がよく表れ、児童の学習態度も落ち着いている。
＊学校の様々な取組について、先生方には自信を持って継続していってほしい。
＊岡野小学校の児童が、元気に楽しく学校生活を送っているのが何よりありがたいことである。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校経営	＊教職員と地域との関係を今後もさらに強化していきたい。 ＊学校だよりやコミュニティ・スクール通信、ホームページなどで積極的に情報を発信しているので学校の様子や活動がよく伝わっていると思う。 ＊児童や保護者のアンケートを２回実施し、自己評価の参考資料としている取り組みは意義のあるものだと思う。 ＊授業やクラブ活動などに地域の人材を活用し、多くの方と子どもたちがふれ合える機会をつくっているのがすばらしい。 ＊地域に開かれた学校づくりを今後も意識して取り組んでほしい。
学習指導の充実	＊保護者アンケートの数値結果より、学力向上の成果がよくでている。 ＊算数の時間を中心に、先生方が授業改善・学力向上施策に取り組まれている意欲を感じる。 ＊成績の良い悪いという結果だけを見るのではなく、努力している姿も評価していくことが大切である。その意識をもって取り組んでいただいていると思う。 ＊落ち着いて授業を受けている様子からも学力の向上が図られていると推察できる。 ＊「漢字検定」は、地域の大人たちが真剣に取り組んでいる姿を子どもたちが見る機会となり、有意義であった。地域をあげて学力向上に取り組むことが子どもの学力向上にもつながると思う。
生徒指導の充実	＊人権・挨拶・思いやり等々は、対人間関係の中で育まれるものだと思う。家庭と地域と学校で良好な人間関係づくりをしていくことが大切である。 ＊子どもたちの「あいさつ」「登下校の状態」「地域での遊び」「規範意識」については、昨年度より改善されてきたと感じる。まだ課題はあるので、学校、家庭、地域が協力し合って取り組んでいきたい。 ＊情報モラルは今後も大きな課題である。関係機関とも連携し、子どもたちだけではなく、PTAなど大人も学習や研修を深めていく必要がある。 ＊いじめや不登校については、全国的に大きな問題となっている。日頃から家庭や関係機関としっかり連携を取り合ったり、全職員で共通理解を図ったりしながら未然防止や早期発見・早期対応に努めていただいている。その結果、不登校や大きないじめの問題が起こっていないと思う。今後も、気を緩めずしっかりと取り組んでほしい。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立　城東小学校
校　長　　押部　匡

1　学校教育目標等

未来に挑戦する たくましい力と心を持つ子の育成　～Challenge・Chance・Change～

2　今年度の重点目標

・Challenge 「自立」に向けて一歩ずつ‥‥知・徳・体のバランスのとれた力の育成
・Chance 学びの機会の設定‥‥主体的に学び、確かな成長を図る場の設定
・Change 安全な学習環境の創造‥‥安全・安心な学校、学びを支える環境づくり

3　学校自己評価結果

（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	①基礎的・基本的な知識技能の確実な習得と活用する力の育成	B	①篠山市や全国の学力・学習状況調査の分析をもとにした授業づくりや家庭学習の取組、朝の学習などを通して、職員の共通理解のもと学力向上に取り組んでいる。朝のスキルは習慣化し、学びに向かう姿勢は作れているが、漢字や計算の力には個人差が見られるため、個別のかかわりを大切にしている。
	②学習習慣の育成	B	②「読書チャレンジ週間」や読み聞かせ、学校図書支援員の活用などで、本に親しむ機会を積極的につくる。家庭学習の方法についても、「家庭学習の手引き」をもとに、自主的に取り組めるよう保護者への啓発を図る。
生徒指導	①基本的生活習慣の確立 ６つの「あ」の取組 (あいさつ、あつまり、あとしまつ、あせ、あるく、ありがとう)	B	①「5分前集合」を基本とし、教職員が時間を意識して児童を動かすことや、静かに集合することなどに心がけているうちに実践できるようになってきている。また、児童会やPTAぐるみであいさつ運動に取り組み、大きな声が出るようになってきている。 しかし、「廊下を歩く」の評価は児童と教師との認識の差があり、今後もその場で根気強く指導していく。
	②いじめ・問題行動への対処	B	②いじめアンケートの実施や個々の面談等によりきめ細かに実態を把握するとともに、問題が発生した時には組織で早急に対応した。
体育・食育・眠育	①研究推進体制や効果的な授業づくり	B	①体育研究１年目として、校内研究体制の整備、全学級での授業研究会、講師を招聘しての実技や理論の研修など、積極的に推進を図った。
	②健康な体づくりや生活習慣を育む	B	②食育は、保護者、地域の協力体制が厚く、様々な取組ができた。また、食育だよりなどで発信し、連携をとった。
保護者・地域との連携	①学校運営協議会を中核とした地域参画による学校教育の充実と情報発信	B	①学校ＨＰの充実、毎月の学校園便り、毎週の学級通信などで情報を発信してきた。オープンスクールでは、高齢者大学の共催や学校運営協議会の意見を取り入れた笑顔写真展の企画などで地域の方の来校も促した。②食育を中心に、地域の方をゲストティーチャーとして招くなど、地域の人材を活かすことができた。それによって児童の学びがより深まり、ふるさとを大切にする気持ちが育っている。
	②体験活動やゲストティーチャーの活用	A	

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

・落ち着いた学習態度と地道な取り組みで、基礎学力の定着が図れている。さらに、学力向上に向けて取り組んでほしい。
・校内の施設については定期的に安全点検がされているが、死角になるような場所にも気をつけてほしい。通学路の安全確保のための申請や、積雪時の対応など、校外での生活については連携を取り、協力体制を取っていく。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・アンケートを取って実態を把握することは大切だが、その結果に振り回されず、今何が必要かということをしっかりと見極めて学校教育に当たってほしい。一つのことについて職員同士でじっくりと話して取り組むことで、連帯感や達成感が生まれる。
・児童だけでなく、保護者や家庭も含めて見ていくこと。連携を取りにくい保護者もあるだろうが、外部機関も活用して児童の成長を支援してやってほしい。地域としても、できることは協力し、学校を支えていきたい。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	・表現力を高めるためには、自分の思いをみんなの前で話す機会を積極的に設けること。児童会選挙や「J-1グランプリ」のように、自分で決めて自分でやり通すことが自信につながっていく。また、お互いに聞き合えることは、個性を尊重する態度を養うことにもなる。
生徒指導	・児童の問題行動の背景になっているものが何かをつかむ必要がある。いじめについては、授業の中できちんと教えたり、自分の経験を話し合ったりして、児童一人一人を認め、自信を持って生活できるようにしてほしい。 ・児童会のあいさつ運動やPTAの協力体制で、児童が大きな声であいさつをしようと意識してきているのはよい傾向である。店先で出会った時に自分からあいさつしてくれた子もいる。しかし、朝の交通立ち番をしているときに、声をかけても返事が返ってこない子もいる。よいあいさつの方法や、なぜ必要なのかということを指導することが大切である。家庭でも子どもとのふれあいやしつけがしっかりとできるよう、学校での取り組みをつなげていってほしい。
体育・食育・眠育	・児童がしっかりと朝ご飯を食べたり、十分な睡眠時間を確保したりというような規則正しい生活ができているのは、今まで食育や眠育に取り組んできた成果であろう。 ・校区が広いという性格上、バス通学の児童の運動量や帰宅後の遊びの変化など、児童の運動面での懸念がある。体づくりという点から、食育や眠育の取り組みを生かして、児童の体格や運動にも目を向けた研究をしてほしい。
保護者・地域との連携	・祭りや地域行事は、子どもにとってふるさとの良さを感じる良い機会である。祭りの行灯や俳句の参加など、学校の協力もあって盛り上がったことに感謝している。 ・３つの地区の生物や特産物、田んぼや旧小学校などを使った様々な授業がされており、児童が生き生きと活動している様子が伝わってきた。新聞などの報道で目にするのもうれしく誇らしい。これからもふるさとの良さを感じられるような取り組みをしていってほしい。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立多紀小学校
校長　野々口　竜

1　学校教育目標等

○多紀を根っこに、自立し未来に挑戦する子の育成
　～多紀に学び、多紀を語り、多紀に貢献する子を育む～
・生命の尊厳と人権尊重の精神を基盤に、児童が自立して未来に挑戦するための確かな学力、豊かな心、健やかな体を確実に育む教育を行う。
・教職員の資質・専門性と学校の組織力の向上に努め、児童の成長を促す環境づくりを進める。
・家庭・地域との協働のもと、地域とともにある多紀の学校づくりを進める。

2　今年度の重点目標

○自立に向かう心の形成を図る。
○知・徳・体のバランスのとれた力を育む教育を推進する。
　・確かな学力の確立　・豊かな心の育成　・健やかな体の育成
○学びを支える環境づくりを推進する。

3　学校自己評価結果

（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学力の向上	思考力・判断力・表現力等を鍛えることをめざし、論理的に書く活動を充実する。	A	条件を付して短作文を書く活動は毎日１回以上取り入れ、日常化を図った。児童は書くことに前向きに取り組んでいる。
	主体的な学びにつながる学習活動として「めあて」と「振り返り」を徹底する。	A	授業でのめあてと振り返りの場を確実に取り入れた。めあての内容について研究を深めさらに学習が深まるものとする。
	話し合い活動の場面を設定し、集団で学び高め合う力を向上させる。	B	多様な形態での話し合い活動の場面を毎日１回以上設定した。より話し合いが深まる題材設定を研究する。
	家庭学習の手引きの活用を通して家庭と連携し、学習習慣の確立を図る。	B	家庭学習の手引きに基づく家庭学習習慣の確立を保護者に伝えることができた。定期的に状況を把握し、さらなる向上を図る。
生徒指導の充実	児童の状況を把握し、いじめ等生徒指導上の問題の未然防止、早期発見・早期対応を図る。	D	アンケートや児童面談、児童観察、その他情報収集により児童の状況や問題行動事案の内容を複数の職員で迅速に把握し、対応チームを核として全職員で共通理解・共通実践するよう改善を図った。
	話し合い活動や集団活動等の場面を重視し、お互いを尊重し高め合おうとする集団づくりを行う。	C	学級会での話し合い活動等を活用し、リレーションの手法を用いてお互いを尊重し合い折り合いをつけて集団としての意志決定を図ることに努めてきた。さらに教職員の集団を伸ばす力を高める。
	自立に向かう基盤として「あいさつ・あつまり・あとしまつ」「まいにち・まじめに・まっさきに」の徹底を図る。	C	児童自身の日常を振り返り目標を立てる活動を通して、意識化に努めてきた。様々な場面でこのことにふれ、児童のさらなる意識高揚を図る。

地域とともにある学校づくり	地域に積極的に情報発信し、学校運営協議会を核とした地域とともにある学校づくりを推進する。	A	学校だより発行やホームページ更新、オープンスクール実施を通じ学校の情報を発信し、来校者1,300名を達成した。学校運営協議会は４回開催し、地域とともに児童の健全育成を図ることを確認・推進できた。
	校区に出かけたり、地域の講師を招聘したりするなど「多紀に学ぶ」学習を展開する。	B	昨年度収集した地域素材の情報を元に、校区探検や地域講師招聘等を行うことができた。今後さらに地域素材を収集し、教材化に努める。
	あいさつ運動を展開し、心の通い合う学校・家庭・地域の関係づくりを行う。	A	学校と家庭・地域が連携したあいさつ運動を実施し、習慣として定着した。さらに教員及び児童の意識の高揚と実践に努める。

4　学校関係者評価結果

（１）重点目標についての評価

・多紀をふるさととして思える児童を育ててほしい。学校行事に地域も参加していきたいし、児童が積極的に地域の行事に参加してほしい。児童の健全育成に向けて、地域としても積極的に協力する。学校と一緒にやっていきたい。

（２）総合的な評価（意見・感想）

・「多紀に学ぶ」教育はこれからも一層推進してほしい。積極的に協力する。
・元陸上長距離選手の小林祐梨子さんを招聘したことはよかった。ランニング教室や講演で児童はよい経験ができた。今後も本物に触れる体験を大切にしてほしい。
・情報通信機器が発達する中、どう出合わせるか、どう使わせるかが大切である。ネットのトラブルは、特殊なものではなく現実社会の中で起こりうることである。ぜひ来年度は講師を招聘して児童と保護者が一緒に学びたい。
・金管バンドの１年間の演奏を聴いていて、年間を通じて演奏技能が向上していったことがよくわかる。特に「英雄の証」は難しい曲であったが、練習を重ねてとても上手になった。金管卒業コンサートは素晴らしかった。１年間の総まとめであると感心した。６年生だけの演奏もあって、６年生の頑張りが伝わってきた。地域の方が毎週ドラムレッスンに来ているのはよい。地域と連携しながら取り組むことをこれからも大切にしてほしい。

（３）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学力の向上	・「書く」活動によって考えが整理される。今後も大切にしてほしい。 ・めあてを示すことなど、授業の流れの基本が決められていることがわかった。 ・話し合いを通じて集団としての意志形成をする機会を今後も大切にしてほしい。
生徒指導の充実	・生徒指導上の課題があったが、徐々に成長が見られるようになってきた。運動会や学習発表会、金管卒業コンサートは、成長が感じられた。 ・挨拶がよくできている。挨拶をコミュニケーションの第一歩としてこれからも指導してほしい。家庭や地域でも積極的に大人から挨拶をしていきたい。
地域とともにある学校づくり	・行事等の参観を通じて、児童の成長の様子を感じることができた。 ・地域の行事にもよく児童が参加してくれた。今後も学校と地域が一緒になって地域ぐるみで子育てに関わりたい。 ・学校と家庭・地域が一緒にあいさつ運動を進めることができた。今後も家庭や校区全体であいさつ運動を進めたい。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立西紀南小学校
校長　杉　本　克　治

兵庫県篠山市立西紀南小学校長印

1　学校教育目標等

自他を大切にし、夢や希望をもって一生懸命に学び、確かな学力と豊かな心をもった児童を育成する

2　今年度の重点目標

(1) 学校施設の安全管理、登下校の安全対策の充実を図り、子どもたちが安心して学べ、保護者・地域から信頼される学校をつくる。
(2) 児童の内面理解に基づいた生徒指導を行うとともに、豊かな心を育む学習や活動を推進し、学校全体として人権教育の充実を図る。
(3) 児童一人一人の個性や特性の理解に努め、将来への夢や目標をもって努力する児童を育てる。
(4) きめ細かな個に応じた指導をもとに、基礎基本の徹底を図るとともに、体験的な活動や問題解決的な学習などを積極的に取り入れ、学力の向上を図る。
(5) 地域と連携したふるさと教育を推進し、愛郷心を育てる。

3　学校自己評価結果
（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学校経営	地域とともにある学校づくり	A	児童の登下校の安全対策（下校放送等）について、校区全戸にアンケート調査を実施し、結果をまとめ、今後の安全対策について学校運営協議会で協議した。協議した結果に基づいて、児童への指導、登下校についての懇談会を行い、安全対策の充実を図った。
	安全・安心な学校づくりの推進	B	・緊急時の職員の対応について、講師を招いた実践的な研修を２回行い、危機対応能力の向上を図った。また、児童の避難訓練についても、２回講師を招き、避難の仕方について指導を受けた。 ・年間と通じて、幼稚園職員と合同の安全点検を実施し危険箇所の改善に努めたが、早期に改善が図れるよう点検後の取組の改善を図る。
学習指導の充実	基礎基本の一層の徹底	B	・授業の始めのスキル学習「チャレンジタイム」を実施するとともに、２学期より新たに昼食前の補修学習「昼のチャレンジ」を行い、基礎基本の徹底を図ることができた。 ・児童アンケートで「勉強がわかる・だいたいわかる」と答えた割合が、前期・後期とも９３％となった。 ・各学年の基礎基本の定着の状況を数値として把握し、それをもとに改善方法を検討していく必要がある
	進んで学習する児童の育成	A	・各学年で手引きをもとに、児童が進んで自主学習に取り組むことができた。また、自主学習への意欲を高めるため、お互いの学習の様子（自主学習ノート）を見合う機会を設け、自主学習に対する意欲の向上を図った。 ・保護者アンケート（後期）で「家庭学習の習慣が身についている」の問いに「あてはまる・すこし」と答えた方が８９％となった。（前期より７％増加）
生徒指導の充実	進んであいさつができる児童の育成	A	・児童会役員による毎週の挨拶活動、育成会による挨拶運動等により、進んで挨拶できる児童が増えている。 ・保護者アンケートでは、「挨拶ができている」と答えた保護者の割合が、前期よりも２０％以上増加した。（前期４３％→後期６７％） ・今後はいつでも自然に挨拶ができる児童を目標に取組を進める。
	豊かな心を育む学習・活動の推進	A	・みなみん相談（児童との面談）を学期に１回実施し、それをもとに「いじめアンケート」についてきめ細かな分析を行い、いじめの未然防止を図った。 ・児童に豊かな心を育む取組として、年間を通じて全教師による人権朝会を実施するとともに、１０月を人権月間として校長が人権講話を行い、同月の参観日には全クラス人権に関する授業公開を行った。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

・「勉強がわかる」と回答した児童の割合が９３％であることは大変良いが、「わからないことがある」「わからない」と回答した児童が前期も後期も７％いる。この児童への指導の工夫が必要である。
・読書習慣が身につくよう環境整備を進めるとともに様々な取組を行った結果、良い成果が出ている。今後、児童の読書量とともに読書の質が高められよう指導を工夫してほしい。
・お互いに褒めることを大切にした取組により、自尊感情が高まった学年があることはたいへん良いことである。学校全体として自尊感情の育成に力を入れてほしい。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・児童・保護者ともに、アンケートの結果が多くの項目で前期より後期の方がたいへん良くなっており、児童の成長が伺える。先生方のきめ細かな指導の成果だと思う。
・児童・保護者・教職員のアンケート結果については、項目ごとに三者の比較ができるよう、まとめ方を変えてみると、より分析ができる。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校経営	・児童の下校放送についてアンケートをとり、その結果、１日１回の放送となっただが、他地域より来られた方がたいへん良い取組であると言われている。今後も継続していってほしい。 ・登下校についての懇談会を開催し、いろいろな意見を聞いたことはとても良い。その中で出てきた学校前の市道を通る車の多くが、制限速度をオーバーしていることについて、注意喚起を促す立て看板の設置に向け、取組を進めてほしい。 ・学校の職員による安全点検とともに、学校運営委員会委員による安全点検も実施した。様々な人による点検により、より安全な環境にしていってほしい。 ・学校の取組を文書やホームページで紹介しているが、学校の取組を映像化し、地域の方に視聴してもらう機会をつくることが良いと思う。学校行事での上映やビデオ大賞への応募を検討してほしい。
学習指導の充実	・今後も日々の基礎基本の定着を図る取組を継続し、さらに基礎的な力を児童につけていってほしい ・様々な取組により、児童に読書習慣が少しずつついてきているが、自分が読みたい思う本を揃えていくことが必要ではないか。児童の要望に応えられるようにしていってほしい。 ・授業の中にペアトークやグループトークを取り入れていることは良いが、人間関係もよく見ながら、本当に児童相互が高め合うものになっているか検証が必要である。 ・全国的に読書への関心が落ち込んでいるように思う。パソコンやインターネットとの関連についても考えてみてほしい。
生徒指導の充実	・いじめのアンケートについて、きめ細かな分析がされているが、名前を記名・無記名にするなど、いろいろなやり方を検討してみてほしい。 ・児童のアンケートの中に、「自分にはいいところがある」という項目があるが、どんなことがいいことなのか児童に理解させることが必要である。言われた経験がなければ自分にいいところがあると認識できにくい。その点でほめシャワーの取組は大変良い。 ・児童の豊かな心を育むために、学校だけでは取り組むことが難しい時には、学校運営協議会委員等に協力を依頼してほしい。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立西紀小学校
校長　塚本　一男

1　学校教育目標等

ともにわかる喜びが実感できる子の育成　～地域とともに　こころ豊かに　たくましく

めざす児童像　　にこにこ笑顔で　あいさつができる子に
しっかり考え　主体的に　進んで学ぶ子に
きたえよう　心も体もしなやかで　強い子に

2　今年度の重点目標

1「確かな学力」を育てる【ともにわかる喜びが実感できる子①】
2「豊かな心」を育てる【ともにわかる喜びが実感できる子②】
3「命と人権」を守る【安全で安心な学校をつくる】
4「ふるさとにしき」を誇りに思う【にしきをかざる】

3　学校自己評価結果

（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程 学習指導	学力向上	B	全国学力学習状況調査や篠山市学力生活習慣状況調査結果をふまえ、授業力向上にむけた授業改善に努めた。
	言語活動の充実	B	講師を招聘した授業研究の充実を図り、伝え合う力の育成に努めた。また行事ごとに児童の意見や感想を発表する機会を確保した。
	個に応じた指導	B	授業中における一人学びの時間を確保し、個別指導の工夫に努めた。また放課後のがんばり学習に取り組み、個に応じた指導を徹底した。
生徒指導	いじめを許さない学校 不登校の改善	B	全教職員によるいじめ防止基本方針についての共通理解を徹底し、いじめにつながる行動の未然防止に努めた。不登校の改善にも結びついた。
	基本的生活習慣の確立	B	積極的にあいさつできる児童もいるがなかなかの子もおり、根気強くはたらきかける。教職員が一丸となって学校全体で取り組むことが重要。
	多様性を認め合う学校	B	さまざまな課題を持つ児童がいる。それぞれの特性の理解に努め、個性の伸張に取り組んできた。また合理的配慮を積極的に進めた。
安全管理 健康管理	安全指導、事故防止	B	スポーツ振興センターにかかるけがは７件で、昨年度と変わらない。
	登下校の安全	B	登校指導の定例化、青友会や里づくり振興会との連携による下校指導、学期初めや学期末における下校指導の実施。
	職員の健康管理、業務改善	C	定時退勤日の励行には努めることができたが、一部教員に課題がのこる。一斉退勤を管理職が率先することで業務改善につなげる。
保護者地域 との連携	地域とともにある学校	A	農業生産者、関係機関の協力を得て、農業生産活動や環境体験学習を充実することができた。また地域行事への積極的な参加に結びついた。
	篠山の教育推進	A	「にしきをかざる」活動をはじめ、ふるさと篠山を学ぶ学習活動を展開することができた。
	情報の発信	A	ＨＰの定期更新とともに学校だよりの月１回発行により教育活動を広く知らせることができた。次を楽しみにしているという声がある。

4．学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

学校経営方針及び重点目標は適切に設定され取り組まれている。
個に応じた指導に心がけていねいな指導がみられ、落ち着いて学習に集中できている。
子どもたちの元気なあいさつがあり、豊かな心の成長がみられる。
地域との連携がとられてあり、子どもたちの育ちに、それが生かされている。
「にしきをかざる」実践が充実している。

（2）総合的な評価（意見・感想）

落ち着いた子どもたちの様子がある。
ふるさと朝会で、子どもたちはしっかり目を見て話を聞き、素直に感想を述べることができている。
育友会の「明るい１日の始まり運動」や下校見守りの際の子どもたちのあいさつが、あたたかく素晴らしい。今後も明るくあたたかい学校づくりを期待する。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程 学習指導	それぞれのクラスの雰囲気がよく、落ち着いて学習に取り組んでいる。 少人数の中、児童自らが司会をして授業を進めるなど、いろいろな指導の工夫がされている。発表する機会も多く取られており、個に応じた指導ができている。 学力向上には、先生方の不断の努力が実を結ぶ。また技能の習得には、繰り返しの練習も必要だと思われる。 特別支援の必要な児童へのきめ細やかな指導ができている。今後も一人ひとりの実態を把握し、実態をふまえた適切な指導が重要である。
生徒指導	積極的なあいさつができており、明るい学校づくりができている。 児童のみなさんのあいさつや雰囲気があたたかく素晴らしいと思う。 地域が心配するような生徒指導上の問題を耳にすることはない。そうした学校運営をしていただいていることが地域としては大変ありがたいと思う。 ネットゲームなどの危険性については、地道な説明や指導が必要である。また講演会を開催するなど、積極的に工夫していくことが必要である。命と人権を守るという視点からも啓発を継続することが重要である。
安全管理 健康管理	大きなけがはないと聞いて安心した。けがの状態やけがの傾向を把握し指導に生かすことが重要だと思う。 不審者情報などメール配信システムにより情報が即時に伝わり効果的である。 登下校時の見守りなど、安心安全な学校づくりに地域としても心がけていきたい。 学校施設設備の大規模改修が計画されているとのことで、改善を期待している。 先生方の勤務については課題が残るという評価であるが、十分な休養をとりストレスをためないよう努めるとともに、教材研究を積み上げ力量を高めるというメリハリのある働き方が大切だと思う。
保護者地域 との連携	ＨＰの更新や学校だよりの発行で、学校の様子がよく分かるとともに地域とのつながりも知ることができる。 学校だよりの全戸配付により、地域とのつながりがより一層深まっているし、地域とのいい関係ができている。 メール配信システムにより保護者との情報共有が早くできる。 「にしきをかざる」取り組みが充実しており、感心している。学校経営にあたっては組織を率いる立場のリーダーシップが重要である。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立西紀北小学校
校長　本　田　　毅

兵庫県篠山市立西紀北小学校長印

1　学校教育目標等

夢に向かって目標を持ち　未来の創り手となる北っ子の育成

2　今年度の重点目標

1　基礎基本の確実な定着と活用力・表現力・思考力の向上
2　豊かな心の育成といじめを許さない集団づくり
3　たくましく生きるための体力・気力の向上
4　地域とともにある学校づくりとふるさと教育の推進

3　学校自己評価結果
（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学力向上	○基礎基本の確実な定着と活用力・表現力・思考力の向上	B	学力調査では、少人数のため学校全体としての特徴をつかむことは難しいが、全体としては、目標値と同程度または上回り概ね良好であった。これは北っ子検定やスキルタイム、放課後学習を継続した成果である。本年度から「がんばりタイム」を実施し基礎・基本の定着を図りながら学力向上を図った。北っ子式算数の「ひとり学び（家庭での予習）４年生以上 90 ％の実施の一層の充実を図り、家庭学習の習慣化を推進する。
	○算数科を中心とした授業研究と新教育課程に向けての校内研修の充実	A	算数科を中心とした授業研究を実施し、思考力を深める授業改善を図ってきた。また、伝え合いタイムの時間を設定し、有効な話し合い活動を通して深い学びに導いた。 新教育課程に向けての研修を実施し、教職員の資質向上を図った。
生徒指導の充実	○豊かな心の育成といじめを許さない集団づくり	A	児童一人ひとりの居場所のある学級・学校生活が送れるよう、月２回の実態把握交流、校内生徒指導委員会の定例化、関係機関との連携を図ってきた。学校地域一体型の行事等を通して子どもを見守る体制を確立。。また、学級担任が児童とじっくりと話を聞く機会を設け、内面理解を心がけた。
	○あいさつ運動の推進	B	先生や地域の人に対してのあいさつはよくできている（93 %）が、友だち同士（86 %）や家族とのあいさつ（93 ％）など、どこでも、誰とでも気持ちの良い挨拶ができる北っ子の育成を推進。。
地域とともにある学校づくり	○地域一体型の行事の充実	A	ふれあい運動会、楽市・楽座、北っ子広場等、学校地域一体型の行事を計画、準備の段階から学校と保護者・地域が一体となって取り組むことにより、草山地域の一層の活性化につながった。
	○ふるさと教育の充実	A	草山地域の豊かな自然、恵まれた自然、恵まれた地域の教育力を活用したふるさと学習を通して郷土愛・愛校心が育めた。 本年度は「復活ビーンズサワー大作戦」として、地域の方々と協働してビーンズサワーの復活を試みました。「ふるさと草山」の良さを広く情報発信することができた。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

・小規模校、少人数、複式学級の良さをいかし、児童一人ひとりの特性をしっかり理解した上で適切な指導がなされている。
・基本的生活習慣の確立や規範意識は、学校と家庭、地域が一体となって培っていくことが大切である。
・「あいさつ標語」の募集を行い、学校・家庭・地域が一つになって地域あげてのあいさつ運動として実施することができた。
・地域一体型の行事への地域住民の参加、地域行事への学校の参加によりお互いが得るものが多い。今後も地域コミュニティの一層の活性化のために学校と地域が連携を深め取り組んでほしい。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・西紀北小学校の卒業生が、中学校や高校の生徒会などでも活躍している姿を見るととても嬉しく思う。
・伝統的体育行事（体育発表会３６年）（なわとび記録会４２年）は、子どもたちが自信をつけるとても良い機会であり、特色ある活動でもあり、草山地域の自慢でもある。今後も是非継続していただきたい。
・草山地域に子どもの元気な声が聞こえることが地域の活性化につながっている。学校地域一体型の行事（ふれあい運動会や北っ子広場）は地域住民も子どもたちも楽しみにしている。これからも学校と地域が一つになって子どもたちのため、草山地域のために取り組んでいただきたい。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学力向上	本年度から実施した「がんばりタイム」では、学習に取り組む姿勢が次第に良くなってきた。中には、自己肯定感ややる気を出せない子がいるが、家庭で褒められていないのではないかと感じた。問題が解けたときの喜びや、達成感、成就感をもっともっと体験させたい。 児童アンケートの結果、わからないことをたずねることに抵抗感を感じる児童が少しいる。わからないことをわからないと言える学級づくりを進めていただきたい。 複式学級となり、教科によって担任の先生以外と学習する機会が増えている。中学校では教科担任制となるため、このような経験は大切である。
生徒指導の充実	子どもたちの元気の良いあいさつは、地域の元気にも繋がっている。「あいさつ日本一の草山地域」は地域の方々もよく意識をしていただいている。今後も地域と一体となった「あいさつ運動」を続けることは、子どもたちの姿を地域の方々に見守って頂くこととなり、「地域の子」は「地域で育む」に繋がることを期待する。 保護者、児童ともに「睡眠時間が充分にとれていない」が 26 %あった。スマホやタブレットパソコンでゲームや動画を見ていることが原因のようである。家庭の協力を得て早寝早起きの習慣作りをお願いしたい。また、学校、家庭が協力して毎年情報モラル・ルールの徹底を図る指導を続けて行く。
地域とともにある学校づくり	「地域について進んで学習し、ふるさとを大切にする気持ちが育っているか」というアンケートは、児童、保護者ともに、約９０%が「はい」と回答している。郷土愛を育み、ふるさと草山を誇りに思う教育の充実を今後とも大切にしていきたい。。 学習発表会でも「草山元気プロジェクト～草山未来予想図～」と題して５・６年生が少子高齢化が進む、この草山地域に元気を取り戻すプロジェクトを提案した。子どもたちにとっては地域を誇りに思う機会、また、地域住民にとっては地域の中の学校の役割を考える機会にもなった。 また、３・４年生の「ビーンズサワー復活大作戦」は、西紀ビーンズジュース生産組合の方々から直接、作り方を教えていただいた。さらに復活させた「ビーンズサワー」を「北っ子広場」で地域の方に試飲していただくことができ、地域の活動となるきっかけにすることができた。 地域と共催で行う「ふれあい運動会」「北っ子広場」「楽市・楽座」は「地域とともにある学校」の原点になる行事であるので、これからも継続していくことが大切である。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立大山小学校
校長　小田　環

1　学校教育目標等

夢をもち　心豊かに　自立する　児童の育成
めざす児童像　よく学ぶ子ども
やさしい子ども
進んで活動する子ども
よく遊ぶ子ども

2　今年度の重点目標

- 自ら学ぶ意欲を持ち，「生きる力」の育成をめざす。
- 人間的なふれあいに基づく生徒指導の充実を図る。
- 安全で安心な学校づくりに努める。
- 地域とともにある学校づくりを推進する。

3　学校自己評価結果

（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程 学習指導	学力向上	B	家庭学習強化週間、学習タイムを徹底し、全国学力学習状況調査の結果を分析し、授業力向上に努めた。
	地域素材を生かした教育展開	A	地域人材、地域素材の発掘に継続的に取り組み、大山小ならではのカリキュラム作りに努めている。
	キャリア教育の視点	C	キャリア教育の視点に立つという意識をもち、授業や行事に取組む。児童にとって身近な方の「生き方」について話が聞けるよう計画していきたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	A	児童自らが挨拶できるよう児童会中心の挨拶運動に取り組めた。学校全体で取り組むことが大切である。
	組織的な取り組みの充実	B	生徒指導委員会の定期開催、いじめアンケートの実施により児童理解に努め、未然防止に努めた。不登校対応も組織的に行っている。
特別支援 教育	特別支援教育の理解と啓発	B	児童の特性を理解し、個性の伸長を図るよう取り組んでいる。保護者への啓発という点においては、課題が残る。今後、行事の中で行えるように計画していく。
安全管理 健康管理	安全指導、事故防止	B	怪我が多かったので、未然に防ぐよう啓発していく。登校指導、地域見守り隊による下校指導を定期的に行い児童の安全を図っている。労働安全衛生委員会を中心に業務改善を行い定時退勤の推進ができた。
地域連携	地域とともにある学校	A	外部講師を積極的導入し、効果的な学習を行うことができた。地域のアドバイザーにより学校と地域とをつなぐカリキュラムの構築ができた。
	情報の発信	B	毎月の学校だよりや学級通信で教育活動を広く伝えることができた。また、新聞に取り上げてもらえるように発信した。週に1回のHP更新はできてはいるが誰もが配信できるようにする。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

学校経営方針及び重点目標は、適切に設定されている。 ・教育や子どもにかかる課題はたくさんあるが、学校があまりにも多く抱え込んではいけない。そのためにも、家庭や地域、機関、団体との連携が必要である。 ・地域の協力を得ながら、地域の歴史、文化、特産物等を子どもたちに継承していくことが学習を通してできていると思う。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・自尊心や自己肯定感の向上には、何よりも大人の言葉がけが大事である。その取り組みができている。 ・教職員、保護者、地域が今まで築いてきた大山小学校の良き伝統を今後の教育に生かしていただき、将来性ある子どもの成長を願って、元気で明るく素直な人間として小学校の6年間を教育、指導していただきたい。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程 学習指導	・知識の習得や学力の定着を図ることは、学校教育の大きな役割であり、先生方の指導により、その成果が得られている様子が見える。 ・地域の題材を活用したり、人材の協力を得る努力をされたりして、子どもたちの興味を深めておられることは好ましい。 ・読書習慣が定着してきたように思う。 ・目標を持たせた指導は大切であり、その目標を達成した達成感や満足感を言葉や態度で示してやれば、やる気を起こすきっかけに結び付く。
生徒指導	・出会ったら、挨拶はよくできているので立派だと思う。 ・出会う子どもたちは、いつも元気な挨拶ができている。学校や家庭での指導の成果である。 ・評価をＡにするには、児童へもっと積極的に関わればよいと思う。 ・下校時の挨拶もしっかりできているので、引き続き指導してほしい。
特別支援 教育	・先生方のご指導の下、支援の必要な児童は、会うたびに成長しているように思う。保護者も前向きで頑張っておられるので、話しやすくかかわりやすい。 ・保護者とのコミュニケーションの機会を増やしていってほしい。定期的に話し合う場も必要と思われる。 ・全校児童一人一人に特性や課題はある。個に応じた支援を講じてほしい。 ・少人数の中でも一人一人の個性をよく理解されて、行き届かせる努力をされているさらに異学年合同授業や他校との交流など多様な個性と触れ合う機会の設定に努めてほしい。
安全管理 健康管理	・わからない子どもの日常生活の中で、絶対うちの子どもは、うちの学校は、うちの地域は問題ないと思わず、日々目配り気配りをしておく必要がある。 ・遊び後の帰宅時間等は、安全上も保護者や地域の人々で声掛けをし、見守れるとよい。
地域連携	・地域の協力を得ながら、地域の歴史、文化、特産物等を子どもたちに継承していくことが学習を通してできていると思う。 ・学校の記事がよく新聞に取り上げられているので、興味を持って拝読しているし、学校のことがよくわかる。今後とも積極的な発信を願う。 ・学級通信では、連絡事項だけでなく、教育目標に照らした子どもの日常生活のエピソードを積極的に取り上げてほしい。よいところをどんどん伝えていってほしい。 ・HPは、更新が大事であり、みんなが使える仕組みを作っていかないといけない。例えば外部に依頼してもいいと思う。いかに今の時代の流れに対応していくかが大事である。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立味間小学校
校長　津瀬　雅

1　学校教育目標等

～笑顔いっぱい　夢いっぱい～
・夢を抱き、自立して未来に挑戦する児童の育成
・ふるさと味間を愛し誇りに思う児童の育成

2　今年度の重点目標

1　一人一人の主体的な学びを高める授業を創造し、確かな学力の育成

2　質の高い学校安全体制の整備

3　学校自己評価結果

（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程 学習指導	学力向上	B	全国学力学習状況調査や篠山市学力生活状況調査結果をふまえ、研究推進委員会を中心として、「めあて」「まとめ」を明確にした授業づくり、教師相互の授業参観など授業力向上の取組を行い、授業改善をすすめた。
	学習規律	C	味間小「学習十の約束」を作成し、学校全体で学習規律に取り組んだが指導者にも温度差があり、十分とはいえない。取組の徹底と保護者への周知を今後もすすめていく。
生徒指導	いじめを許さない学校	B	アンケート実施や定期的なケース会議等で児童の実態を把握し、その都度解決に向けての協議をしてきた。いじめを見逃さない感性を磨いていく。
	基本的生活習慣の確立	C	自分からあいさつができる児童を目指しているがなかなかできない児童もいる。教師から元気な声かけや挨拶の意味を伝える等、繰り返し指導を続けていく。
	特別支援教育	B	教職員間で一人ひとりの児童について共通理解を図ることで、全職員が関わりを意識することができた。さらに、相談しやすい雰囲気を作ったり、合理的配慮など、保護者との信頼関係を今以上に構築したりしていく。
保護者地域との連携	地域とともにある学校	A	農業生産者、関係機関の協力を得て、農業生産活動等、ふるさと教育に積極的に取り組めている。
	情報の発信	A	学校便りの発行や、学校ホームページの定期的な更新により、学校教育活動を広く知らせることができている。
安全管理	安全指導	C	「自他の命を大切にする」をあらゆる機会を通して指導してきたが、廊下を走るなどまだまだ児童は安全意識が低い。今後、生活安全、交通安全などについて具体的な事例をあげ指導の充実を図る。
	学校事故防止	B	安全指導を日常的に行ったり、全校生にルールを確認する機会を設けたりすることにより、校内における怪我が減少している。定期的な安全点検により、校内の安全の確認ができている。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

⊙妥当である。 ・先生方が登校指導だけでなく、下校時にも引率していただいている。ありがたい。 ・味間は全員徒歩通学。新聞紙上で登下校中の列に車が突っ込んだという記事が載っている。これからも、安全指導をしっかりお願いしたい。 ・交通当番の子が、交通旗を上手に使って誘導し、渡り終えたら、自動車で止まった私たちに頭を下げてくれる。きちんと指導されていてうれしい。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・地域にやさしく、自分たちに厳しい評価になっている。 ・５月には校長先生から、学校目標や学校経営方針、子どもたちにつけたい力、具体目標などを提案していただき、１年間取り組んでもらった。１０月には、授業も見せていただき、しっかりやってもらっていると思う。 ・今年の評価での改善策を、次年度に生かしてほしい。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程 学習指導	○妥当である。 ・味間小学校は人数が多いので、子どもたちは切磋琢磨している。小規模校では、先生が一人ひとり対応できるが、味間小学校ではそういうわけにはいかない。子どもたち同士の教え合い、学び合いが必要である。 ・朝の読み聞かせの時、聞けない子がいて、周りにも迷惑をかけている。授業が始まっても同様だった。学校では、「聞く」ということを重点的に指導されているので、学校の思いを大切にして、私たちも読み聞かせに取り組みたい。 ・１０月の参観日に授業を見せていただいた。参加型の授業で、子どもたちがいきいきと授業をしていた。先生方の授業への工夫・改善がみられた。
生徒指導	○妥当である。 ・第３木曜日に「あいさつ運動」をしているが、はじめはあいさつをしてくれなかった子が、繰り返しすることで、あいさつができるようになってきた。 ・自分からあいさつをする事が大切。 ・あいさつは、強制するものではない。大人から気持ちのよいあいさつを続けていきたい。 ・いじめを許さない学校づくりについて、早期発見や未然防止に努めていただいていることはうれしい。
保護者地域との連携	○妥当である。 ・都会の子は篠山を田舎と思っている。味間の子は農業体験を当たり前だと思っているが、娘の友だちで都会の子が来た時に、娘が小学校の思い出を話すと、うらやましがっていた。今後も農業体験を続けてほしい。 ・学校の先生は大変だと新聞に載っている。先生がしんどい状態だったら、子どもたちを教えられない。改善できるところは改善してください。定時退勤日など地域にもきちんと知らせてください。地域住民が学校のことを知り、理解し、協力していくことが大切。 ・中野母親学級お楽しみ会やわくわくハイキングなど、地域でさまざまな行事がある。先生方も地域の行事に積極的に参加してほしい。 ・味間の子を地域みんなで指導していくことが大切。 ・学校行事について、民生委員会の中で紹介している。
安全管理	○妥当である。 ・集団下校の時、塾などの関係で、高学年が親の車で先に帰っている。これは、年々増加傾向にある。「地区別懇談会」で、議題にあげてはどうか。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立城南小学校
校長　　畑中　さと

兵庫県篠山市立城南小学校長之印

1　学校教育目標等

『こころ豊かにたくましく生きる力の育成』　こころ豊かに将来をたくましく切り拓いていく力を培い、安全・安心な学校づくりを進め、 夢や目標を持った自立した児童を育成する。

2　今年度の重点目標

◇　「確かな学力」をつける学習指導の充実・・・学び続ける自分づくり
◇　「地域とともにある学校づくり」・・・ふるさとに学ぶ自分づくり
◇　「豊かな心」をはぐくむ教育の充実・・・こころ豊かな自分づくり
◇　「生きる意欲」を培う学校生活の充実・・・たくましい自分づくり

3　学校自己評価結果

（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導の充実	◇学び合い活動を取り入れた授業の確立と推進	A	・１年間研修で算数の授業に効果的な学び合い活動を入れた授業改善に取り組み、研究会と研究冊子配布で市内に発表した。 ・他教科での学び合いや、話すスキル、基礎となる学力や考える力をさらに育てることでさらに自分の考えをもち、対話により友達と学びを深める子に育てたい。
	◇基礎学力の着実な定着	B	・昨年の朝スキル学習に加え、城南検定、算数カルタ、体感できる掲示物等も取り入れ、全校で基礎的な内容の定着を図った。 ・「ひょうごつまずきポイント指導事例集」も活用しながら、系統的なつまずき解消スキル教材を作成・活用で習得を目指す。
	◇キャリア教育の推進	B	・６年間継続して取り組めるｷｬﾘｱｼｰﾄの作成等、ｷｬﾘｱﾉｰﾄの活用ができた。 ・ｷｬﾘｱ教育推進研修やﾉｰﾄ活用はできたが、全教育活動を結ぶ意識で取り組みたい。
生徒指導の充実	◇学習規律・基本的な生活習慣の定着	C	・学級指導や児童会週目標、校内掲示、全保護者への説明等で、敬語や正しい言葉使い、あいさつ、５分前行動等、集団生活の規律を整える取組を継続して進める。 ・「城南っ子のくらしのルール」は PTA との意見交換等で共通理解を図り進める。
	◇組織的な取り組みの充実	B	・生徒指導委員会の定期開催、いじめアンケート実施によるいじめ発見や早期解決に取り組み、児童と信頼関係を構築した。 ・温かな人間関係作りに向けて、あいさつ、呼び捨て等、相手を尊重した話し方の指導を教師が率先して取り組む。
保護者、地域との連携	◇地域とともにある学校づくりの推進	A	・学校運営協議会「城南っ子応援隊」の取組を昨年から継続しふるさと学習を進めた。 ・高齢者大学との交流事業、夏の地域行事の協力等にも取り組んだ。 ・ホームページ、学校だよりの全戸配布等で、学校の取組や児童の様子を発信した。
	◇安全・安心な学校づくりの推進	A	・安全点検、防災訓練などを計画的に実施し、学校運営協議会でも検討しながら取り組みを進めた。 ・けがの件数も生徒指導や保健指導等で、前年度に比べ減少した。

4．学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

・研究会や参観、今回の学校自己評価からも、しっかり子どもたちの学力が向上するように取り組んでいただいていることが理解できた。さらに自分のための勉強ができる子にしっかりと育ててほしい。
・幼稚園の行事を見て、幼稚園の子どもたちに色々な体験からできることが増えていると感じた。小学校はその延長線上にある。連携して、積み重ねていってほしい。
・あいさつのできる子が増えて喜ばしい。まだ言葉の乱れは気にかかる。家庭連携とともに教職員も率先してあいさつや正しい言葉遣いができるようになってほしい。
・ふるさと学習の拠点として、「アグリステーション」の活用や地域での学習が定着してきた。親子での活用もさらに広げていってほしい。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・学校になかなか足を運べず、ホームページを見られない方には、全戸配布の学校だよりは助かるし、学校の理解にもつながるので、続けてほしい。
・行事等で学校に来ると、温かなおもてなしの気持ちが伝わってきて、子どもたちの表情も明るく、全体的な雰囲気がよくなったと思う。
・共働き家庭が多く、学校・学童クラブに学習習慣をゆだねておられ、責任は大きい。協力しながら進める必要がある。家庭との連携をしっかりとることが大切だと思う。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導の充実	・今年度も教科の授業を参観して、子どもたちにわかりやすい授業をされていることや子どもたちが熱心に学習している姿に感心した。一人一人にきめ細やかな指導をこれからもお願いしたい。 ・中学校では勉強が中心。自分のために勉強ができる子に育ててほしいので、今年度の方針や授業はその方向性を感じるので、指示する。 ・家庭学習習慣を身につけるために、学童クラブでも「帰ったらすぐ宿題に取りかかる」習慣づけをしている。学校と家庭に加え、学童クラブでの取組も連携できたらよいと思う。
生徒指導の充実	・２学期にも LINE の話題が出たが、家庭のことであっても学校が中心になってもらわざるを得ない部分がある。子どもたちには失敗体験をしながらも学んでほしいし、学校は家庭や地域と情報を共有しながら進めてほしい。 ・自分の発した言葉が相手を傷つけることに気づかない子がいる。いじめアンケートを学期ごとに公開していただいているが、これからもおかしいときはきちんと指導をお願いしたい。 ・色々な習慣づけを学校にはお世話になっていると感じる。自治会活動に出られない家庭が多い現状で、地域がどのように関わっていくか、一緒に考えていきたい。
保護者、地域との連携	・新しい「J アラート」の訓練など、取り組んでいただいた。地域でも考えていきたい。 ・PTA の見守り運動や地域と一緒の防災訓練など、連携した取組を来年度も続けていただきたい。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立古市小学校
校長　　足立　浩

1　学校教育目標等

＜こころ豊かで自立した児童の育成＞
安全・安心な学校づくりを着実に進め、広げ、こころ豊かで自立した児童を育成する。

2　今年度の重点目標

1　保護者・地域から信頼される安全・安心な学校づくりを推進する。
2　基礎・基本を大切にし、確かな学力を身につけさせる。
3　豊かな心を育成し、人間尊重の道徳教育の充実を図る。
4　地域を誇りに思う「ふるさと教育」を進めるとともに、国際性の素地を育む教育の充実を図る。

3　学校自己評価結果

（達成状況・・A：よく達成できた　B：達成できた　C：やや課題が残る　D：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学校経営（安全･安心な学校づくり）	・安全学習、安全指導	A	児童の危険回避能力の向上をめざした安全教育を全学年実施した。（研究授業年７回）（アンケート結果より良い評価、保護者93%、児童78%、以下同様）
	・いじめのない安心な学校づくり	A	いじめ問題に係る意識の向上を図り、迅速・組織的対応と情報の共有化を図った。生徒指導委員会（毎月）といじめアンケート（年間３回）を実施し、いじめの疑いを含め100%の事案を解消することができた。
	・組織活動、保護者や地域との連携	B	保護者・地域と連携し、安全点検、通学路通行自粛ビラ配布や地区内安全点検等に取り組んだ。（保；90%）
学習指導 学力向上	・丁寧で分かりやすい授業	A	学習規律の定着と指導方法の工夫改善を図り、丁寧で分かりやすい授業づくりを進めた。（分かりやすい授業；児88%、保88%、漢字；児85%、保83%、計算；児83%、保83%）
	・個に応じた指導	A	新学習システムによる少人数指導、複数指導、スキルタイムの充実により基礎基本の定着を図った。（児90%、保83%）
	・学習習慣の確立	B	家庭学習の習慣化（児90%、保78%）を図った。「読書の日」の設定等読書指導を進めた。（読書習慣；児73%）
生徒指導	・活気があり楽しい学校	A	自尊感情を育む学級経営により、学校、クラスとも活気があり明るく楽しいという評価が高い（保90%、児93%）。挨拶は粘り強い指導が必要である（児83%、保78%）。
	・自立心、規範意識	B	日常的にルールの大切さを指導した。（保80%）「あいさつ、あつまり、あとしまつ」等、落ち着いた生活ができている。
	・家庭と連携	A	指導上配慮を要する事項については、すぐに家庭に連絡し情報共有するとともに、対応について連携を図った。（保90%）

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

1　安全・安心な学校づくり

・古市小の最重点課題である安全な学校づくりは、「知・徳・体」の基本であり普遍的なもの、教育の基本なので、保護者・地域との連携のもと今後も大切にしたい。

2　確かな学力

・どの学年も、先生と一緒になって良い雰囲気で学習に取り組んでいる。教室も整理されていて集中できる学習環境となっている。外国語や環境学習など学習内容が増える中、基礎・基本とともに特に勉強への「やる気（意欲）」を育ててほしい。

3　豊かな心

・地域の人との交流や様々な体験活動で心は育っていく。「ふるさと教育」と合わせて様々な体験活動を進め、豊かな心を育みたい。田畑で仕事をしていると、大きな声であいさつをしてくれる子がいて元気をもらう。全体的にあいさつの評価は低いが、地域や児童によってはよくできている。

4　地域を誇りに思う「ふるさと教育」、国際性の素地を育む教育

・古市地区には、教育に生かせる自然や史跡、人材が豊かである。古市地区の特色を生かして地域を誇りに思う子どもを育てたい。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・新学習指導要領の実施に伴い外国語や道徳の教科化が始まると、学校が益々多忙化し今の安全な環境が保たれないことが心配される。余裕を持って安全・安心な学校づくりを進めるためにも、行事等削減できるものは今から段階的に削減を進めてはどうか。
・地域とともにある学校づくりを進めるために、オープンスクールには地域の方に多数来校していただき、子どもたちの頑張りを見ていただきたい。
・ＰＴＡ活動への参加状況が少し低くなっている。児童数の減少に伴い保護者数も少なくなる中、事業の見直しを考えることも必要かと思う。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校経営 （安全・安心な学校づくり）	・月２回とＰＴＡ年２回の安全点検等により、安全な教育環境が保たれている。危険なことはいつ起こるか分からないので、安全意識を高め常に配慮をしてほしい。 ・通学路の安全については、各地区それぞれ課題を持っている。保護者・地域とともに安全確保に留意していきたい。
学習指導 学力向上	・授業中、子どもたちは話をよく聞いており、落ち着いて学習に取り組んでいる。活発な学習態度や伸び伸びした発言などを見て、学力が身についていることが分かる。 ・俳句作りでは、「子供歳時記」を教室に置いたり地域へ出向いて作ったりするなどより良い作品作りを工夫してはどうか。 ・読書習慣の状況は他校と比べ良い方ではないか。小学校時代の経験は生涯につながるので、まず先生が好きになり読書の喜び・楽しさ伝えてほしい。
生徒指導	・少人数のため人間関係の固定化が心配される。学校では、いじめ問題についてアンケート・聞き取り等で早期発見や早期解決に努めている。学校・家庭間での連携を密にし、気軽に相談できる関係をつくっていきたい。 ・全国学力学習状況調査から古市小児童は自尊感情が低い傾向にある。小さい頃から自尊感情を高める教育を進めたい。 ・あいさつは学校だけでなく家庭での習慣が大切なので、いろんな機会を通じて呼びかけたい。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立今田小学校
校長　　高森　俊広

1　学校教育目標等

学校教育目標
「ふるさと今田を誇りに思い、自立して未来に挑戦する今田っ子を育成する」
目指す児童像
「学ぶ姿勢」「学ぶ喜び」「学ぶ意欲」を持つ子ども　～自然・文化・人に学ぶ～

2　今年度の重点目標

1　コミュニティー・スクール事業を核に、職員・保護者・地域住民が丁寧にコミュニケーションをとりながら、今田小学校ならではの特色ある教育を推進する。
2　「書く活動」「話し合う活動」を積極的に取り入れた授業を展開する。また、課題テストを実施することにより、目標を持って学習する姿勢を育て、学力の向上を目指す。
3　いじめを絶対に許さないという確固たる方針のもと、子どもの心に寄り添った組織的な生徒指導を進め、すべての子どもがいきいきと生活できる学校づくりを進める。

3　学校自己評価結果

（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
地域とともにある学校づくり	学校運営協議会との連携	A	計４回の会合を持ち、主催事業の「ふるさと講演会」（今年度は「日本遺産伝承教室」）を実施することができた。
	地域人材の活用とふるさと教育	A	「サギソウ栽培」「作陶活動」「黒豆栽培」等で地域からゲストティーチャーに来ていただき、特色あるふるさと教育ができた。
	学校だよりや学級通信、ホームページによる学校情報の発信	B	学校だよりは毎月１回、学級だよりは毎週発行し、保護者や地域住民に学校情報を発信できた。ホームページの更新も定期的に行ったが、学年のページ等については、来年度さらに充実させたい。
学力向上	「書く活動」「話し合う活動」を取り入れた授業作り	B	授業に書く活動・話し合う活動を積極的に取り入れることができた。今後も継続し、深い学びにつなげていきたい。
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	B	ノート指導の充実で自主学習が定着してきている。課題テストや学習タイムも効果をあげている。今後は「家庭学習の手引き」を再確認し、家庭との連携を強めていく。
生徒指導の充実	生徒理解と組織的な対応	A	生徒指導委員会を定期的に開催し、気になる児童についての情報交換や指導の方向性を確認し、全職員で共通理解することができた。
	問題行動の早期発見、早期解決	B	アンケートと子ども個人懇談（教育相談）を定期的に行い、問題行動に対しても早期発見、早期解決に努めることができた。
	児童の規範意識の向上	A	朝会や道徳の時間を利用した全体指導と個々の事案に対する個別の指導を丁寧に行い、規範意識の向上に努めた。児童会が安全見守り隊を作るなど、児童の自主的な活動も見られるようになった。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

・学校運営協議会が主催した「ふるさと講演会」（日本遺産伝承教室）が実施できた。良い取り組みで児童にも好評だった。やはり本物を見せることが大切である。
・学習指導について、先生方の授業や学習指導以外の業務が多くなっている状況があるのなら精選していくことも必要である。
・数や割合は少ないが学校に行くのが楽しくないと感じている子がいる。そういった児童にも寄り添っていくことが大切である。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・学校運営協議会としても児童の学習や生活、行事等についてできる限りの協力をしていきたい。
・スマートフォン等の所持率は高くなってきているのだろうか。使い方等について心配もある。
・学校での栽培活動（農作物）は、今年度野生動物による被害が大きかった。来年度は規模を縮小したり、栽培についての専門家による指導を仰いだりしてはどうか。
・子どもたち自身は挨拶をよくしていると思っているようだが、もう少し積極的に地域でも挨拶をしていけるようになってほしい。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
地域とともにある学校作り	・「ふるさと講演会」（日本遺産伝承教室）がうまくできてよかった。児童だけでなく、保護者や地域の人も篠山の伝統文化にふれて正しく知ることができた。関係の皆様には大変お世話になった。 ・今田子ども見守り隊の方々には毎日の登下校に付き添っていただき、安全面で児童も心強かったと思う。 ・学校行事や児童の活動等でできることがあるならば今後も学校運営協議会として協力していきたい。 ・ゲストティーチャーの活用は今後も積極的に行っていくとよい。
学力向上	・アンケート結果で「勉強はよくわかりますか」の問に対して９４％の児童が「わかる」と評価しているが、保護者では、「子どもが学習内容を理解している」と答えたのは８２％である。課題のある児童にも丁寧に指導していくことが大切である。 ・朝の読書が静かにできていないときがあると子どもから聞いたことがある。忙しいときもあるだろうが落ち着いて読書ができるようになるとよい。 ・学校行事以外でも外部から様々な協力依頼があるようだ。そういったことが先生方の業務に支障を及ぼさなければよいが、精選していく必要もあるのではないか。 ・基礎学力の向上に今後も取り組んでほしい。
生徒指導の充実	・アンケートでは「友だちに優しくしている」が９５％、「勉強や運動に目標を持って頑張っている」が９２％と全体的に落ち着いて前向きに学習や生活に取り組めている。問題行動の早期発見・早期解決が大切である。 ・インターネット等、情報機器を使ったトラブルが起こると対処が難しいことがある。 ・情報機器の使用については学校でもルールを定めている。児童だけでなく、保護者に対しても積極的に啓発活動を行っていくことが大切である。 ・子ども個人懇談等で児童の様子を見てもらい、今後も丁寧な指導をしていってほしい。

平成29年度 学校評価報告書

篠山市立篠山中学校
校長 森田恭弘

兵庫県篠山市立篠山中学校長之印

1 学校教育目標等

「自ら学ぶ力、温かい心、たくましさを持って生きる生徒の育成」

2 今年度の重点目標

①自ら学ぶ力
○「篠中が目指す授業」の浸透　○家庭学習の定着　○疑問・質問に答える教師　○個別の指導計画による特別支援
②温かい心
○いじめの防止、早期発見、早期対応　○言葉・文字、交流で深まる道徳の時間　○篠山の伝統文化の理解
③たくましい心身
○あいさつをする学校　○登校する喜び・楽しさ　○計画的な保健指導　○事故・ケガの防止　○情報モラルの定着
④連携する学校づくり
○HP、学校だより、通信による広報　○学校運営協議会の開催　○小学校・中学校の相互理解の促進
⑤元気な教職員
○助け合い、認めあい、励まし合う職員組織　○木曜日の定時退庁

3 学校自己評価結果

（達成状況・・・A:よく達成できた　B:達成できた　C:やや課題が残る　D:改善を要する）

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	授業の中に、個人思考（作業）、ペア・グループ学習、発表（表現）を取り入れた授業をしている。	B	・「篠中が目指す授業」の定着を目指して、教科部会の研究授業年2回以上、全体研修会を1回開催した。徐々に職員・生徒に浸透している。しかし、目標・まとめの内容、話し合いのルールづくり、発表仕方など、来年度も引き続き研修を続けたい。 ・家庭学習については、全学年が自主学習ノートを充実させる取り組みを行い、徐々に学習時間が定着しつつある。来年度は、自主学習ノートだけでなく、予習・復習のあり方についても研究し、実践していきたい。 ・特別支援教育は本校の大きな教育課題である。28名の特別支援学級生徒の支援計画を作成し、実践してきたが、全職員が共通理解するには至っていない。支援学級生徒、通常学級で支援を要する生徒について簡易な計画を作成し、全職員で研修を行い、共通実践をしていきたい。
	家庭学習を1時間40分以上、2年生1時間50分以上、3年生2時間以上している。	B	
	特別支援学級の生徒及び通常学級に在籍している支援を要する生徒について、学期ごとに個別の指導計画を見直し、全職員で共通理解をしながら共通の指導を行う。	B	
道徳教育	いじめの防止、早期発見、早期対応をするために、全職員で取り組む。	A	・学期に1回の「いじめ」アンケート、教育相談、QUテストの実施、道徳の時間・学級活動等による心の耕しによって、「いじめ」に対する生徒や職員の意識は高い。今後も、生徒会や学級会を通じて、生徒自身が考え行動する態度を養っていきたい。 ・県教委より「伝統文化の学びの充実事業」の指定を受け、デカンショ節・踊りを中心に取り組んだ。特に、体育祭でのデカンショ総踊りは大いに盛り上がった。職員自身が篠山について知らないことが多く、まず職員こそが知り、学び、誇りに思うことこそが大切である。
	篠山の伝統文化（デカンショ、歴史、文化、自然など）を知り、理解し、人に伝えることができる。	B	
生徒指導	家庭、地域、学校でさわやかで元気のよいあいさつができる。	A	・職員による登校・下校時の立番活動、生徒会のあいさつ運動、PTAによるあいさつ運動により、学校全体がさわやかなあいさつができるようになった。 ・不登校生徒、不登校傾向の生徒に対して、職員間の情報交換、生徒指導委員会・ケース会議での検討、適応指導教室の充実、小学校との連携、「ゆめハウス」との連携を通して、きめ細かく、ていねいで、家庭と連携した取り組みに努めた。 ・生徒会の「情報機器取り扱い三箇条」呼びかけ、ポスターの掲示、全校学習会の開催を行い、啓発活動を行った。徐々に情報機器に対する意識は高くなっている。しかし、生徒の情報機器所持について一義的な責任がある保護者への啓発こそ重要である。親子合同学習会など、PTAと連携した取り組みを行いたい。
	ケース会議、学年会議、生徒指導委員会を通じて、不登校生徒、不登校傾向生徒に対して、組織的でていねいな指導を行う。	A	
	「篠山中学校情報機器取り扱い三箇条」（大切なことは相手の目を見て言おう、情報モラル・情報リテラシーを身につけよう、宿題は終わりましたか？使用時間を考えよう）を守る。	B	
家庭地域連携	学校だより・学年だより・学級だより・保健だより・図書だよりなどの発行、ホームページの毎日の更新を通して、保護者・地域への広報活動を積極的に行う。	A	・学校だよりの毎月発行、学年・学級だよりなどの積極的な発行、ホームページの毎日更新などを通して意欲的に広報を行い、生徒の状況や活躍を知ってもらうことができた。 ・年4回学校運営協議会を開催し、その内2回は環境美化作業を行った。協議会の呼びかけで生徒、保護者、地域の方に輪が広がり、多くの人々が環境美化作業に参加し、美しくすると同時に交流の良き機会となった。 ・小中連携については、合同研修会、小学校への2回以上の出前授業、入学説明会等でより相互理解を行うことができた。来年度は、「9年間の学び・育ち」のリーフレットを作成し、校区内の小中学校が同一歩調で生徒指導・学習指導ができるようにしていきたい。
	学校運営協議会を開催し、学校への意見聴取や環境美化活動・花いっぱい活動を行う。	A	
	小中連携推進委員会、小中合同研修会、各小学校への出前授業、入学説明会などを通して、小中の相互理解に努める。	A	
業務改善	木曜日は定時退庁の日として、19:00までの退庁に努める。	B	・業務改善の取り組みが少しずつ職員に浸透し、効率よく会議をしたり、時間の有効に使うなどの意識の向上は見られる。しかし、定時退庁が十分に定着しているとは言えない。放課後の会議の精選、校務分掌の見直しなど、できることから実施していきたい。

4 学校関係者評価結果

(1)重点目標についての評価

・学校の課題が網羅されており、重点目標は妥当である。
・各重点目標についてはアンケート等を通してていねいに分析・評価がされている。

(2)総合的な評価(意見・感想)

・トライやる・ウィークでは、生徒は目を輝かせて取り組んでいる様子を見かける。これを学校の教育活動に生かしてほしい。
・アンケート結果を見る限りでは、生徒や保護者は学校に対してやや甘く、職員は自らに厳しい評価をしている傾向にある。
・トライやる・ウィークの取り組みによって、間違いなく学校、家庭、地域のパイプは太くなっている。学校にとって保護者や地域は大きな支えであるので、より連携を密にしてほしい。
・職員アンケートはやや厳しい結果が出ているが、篠山中学校は全体的によくやっている思う。
・保護者、地域、小学校との連携がより進んでいることは大切なことである。

(3)学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	・授業は学校教育の中心である。授業改善に継続して取り組んでほしい。 ・家庭学習は習慣化することが重要である。保護者にも啓発をしながら、自主学習ノート、予習・復習の取り組みを継続してほしい。 ・特別支援教育については、生徒を学校全職員で支援できる体制をつくっていってほしい。
道徳教育	・いじめによって中学生が自殺をする悲しい出来事が報道されている。生徒が悩んだり困ったときに親身に相談できる職員集団であってほしい。 ・自殺などの悲しいことが起こらないように、一人ひとりの生徒をできる限りしっかり見てほしい。楽しく学校生活が送れている生徒の割合をもっと増やしてほしい。 ・将来、篠山に帰りたいと思えるような地域でありたい。 ・ふるさと教育は小学校ではよく実践している。中学校は範囲が広くなるからやりにくいのかもしれない。少しずつでも継続することが大切である。先生にも篠山の良さを知ってほしい。
生徒指導	・ある部はとても礼儀正しく、気持ちのよいあいさつをする。下校時を見る限り、生徒全体の40%はあいさつをしていない。 ・地区によっては、小学生も中学生もよくあいさつができている。 ・情報モラルについては、学校に任せるのではなく、保護者がもっと情報機器について知り、責任を持たなくてはならない。分からないままに与えているのは大きな問題である。 ・情報機器については子どもが親よりも先を行っている。親こそが知識を身につけ、責任を持って子どもの携帯電話・スマホに制限をかけなくてはならない。 ・生徒は穏やかで温かく家族的な雰囲気を持っており、学校が落ち着いている。 ・情報機器に書き込んだことに企業などからチェックが入り、就職するときに影響すると聞いて驚いた。しっかりした知識とモラルを身につける必要がある。 ・薬物乱用で一生を台無しにした人もいる。薬物乱用防止をはじめ、食育、歯科保健指導、喫煙防止、性教育などの健康教育を計画的に継続して行ってほしい。
家庭・地域連携	・生徒は穏やかに楽しく学校生活を送っている。地域が温かく生徒を見守っているからだと思う。環境美化活動を中心とする学校運営協議会の取り組みも良かった。 ・登校中に自転車のトラブルがあったが、地域の方に助けていただいた。地域の温かさを強く感じる。 ・学校運営協議会の呼びかけで、環境美化活動に多くの生徒、保護者、地域の方が参加していただいた。声を掛け合い、輪を広げることが大切である。 ・通学路の安全など、PTAと学校運営協議会が連携をして市や市教育委員会に陳情することも考えていきたい。
業務改善	・他の学校では夜遅くまで電気がついているのを見かけることがある。忙しいのは分かるが、せめて週に1・2回は定時退庁をしてはどうか。習慣化することが大切である。 ・土曜日、日曜日に部活動の指導をしていただいていることに感謝している。ただ、教師にとっては大きな負担になっていることが予想される。何かよい手立てはないのか。 ・部活動の指導は大変だと思う。生徒数が減少して部活動の運営が大変である。また、教師のとっても大きな負担である。部活動数を適正化したり、運営を工夫する必要がある。 ・いずれ篠山中学校も生徒数減少により1学年3学級の規模になる。部活動、学校行事、PTA活動など、先を見越した対応を検討していく必要がある。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立篠山東中学校
校長　溝　端　洋　美

1　学校教育目標等

「自信と誇りを持ち、こころ豊かでたくましい生徒の育成」

ひらく！　～心　道　花　地域～

2　今年度の重点目標

1　学ぶ意欲　確かな学力（＊主体的な学び＊家庭学習の定着＊個に応じたきめ細やかな支援）
2　やさしい心（＊人権教育・道徳教育の充実＊安心して過ごせる学校づくり）
3　たくましい身体（＊健康・安全教育＊登校する喜び・楽しさ）
4　地域との連携（＊地域の開かれた学校づくり＊ふるさと教育の推進＊小中連携）
5　元気な教職員（＊心身ともに健康な教職員＊計画的な年休・割り振りの実施）

3　学校自己評価結果

（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	活動（作業）、協同（ペア学習・グループ学習）、表現（発表）のある授業を意識して取り組んでいるか。	A	・共同学習に取り組んで３年、生徒、保護者に浸透している。本年度は教科以外の道徳、学活、総合的な学習の時間にも取り入れた。 ・めあての提示やふり返りはしているが、理解度のチェックまで至っていない。 ・「家庭学習のすすめ」「学習生活指針のリーフレット」を利用し指導は行ったが、目標とする定着率80%には達していない。時間だけではなく内容の充実にも取り組んでいきたい。 ・木曜日の放課後等を利用し、できる限り個に応じたきめ細やかな指導を心がけた。
	「めあて」を分かりやすく提示し、最後に「ふり返り」をして理解度をチェックしているか。	B	
	家庭学習の定着（時間・内容）に向けて指導しているか。	B	
	休み時間、木曜日の放課後等を使って、個別の指導を行っているか。	A	
道徳教育	道徳の時間、生徒の考えや意見を大切にした心にせまる授業を心がけているか。	A	・年３回道徳の校内授業研究会を行い、ペア・グループ学習を取り入れ対話的で深い学びになるよう研修を深めた。 ・地域から講師を招聘し、人権に関する地域教材を学習した。人権教育・ふるさと教育の推進につながった。
	授業の中に「ふるさと篠山」に関連のある題材を取り入れたか。	A	
生徒指導	欠席生徒、不登校傾向生徒に対して、生徒指導委員会、生徒支援委員会、ケース会議、学年などで組織的に対応しているか。	A	・定期的に委員会、ケース会議等を開催し、早期発見、早期対応に心がけた。また、小学校や関係機関と連携を密にして組織的に対応した。 ・定期的な安全点検、毎日の交通指導、安全啓発を行った。また、学校保健安全委員会の意見も参考にして保健安全に努めた。 ・生徒会を中心に「情報機器取り扱い宣言」をもとに「家庭のルールづくり」100%達成した。
	毎月の安全点検、交通立番、生徒への安全の啓発を確実に行い、ケガや事故防止に努めているか。	A	
	情報機器の取り扱いについて指導をしているか。	A	
家庭地域連携	学校だより、学級だより、保健だより、ホームページなどを通して、積極的な広報に努めているか。	B	・各種たより、HP更新等により広報活動に努めたが、保護者にとっては十分満足ではなかった。たより、HP更新は継続しながら今後の啓発の方法も考えたい。 ・学校運営協議会が主催して創立20周年記念事業を行った。愛校心・郷土愛の育成とともに地域の活性化につながった。 ・予定通り交流会、連絡会、出前授業、研修会等実施できた。
	コミュニティ・スクール事業によって、地域の方がより多く教育活動に参画されているか。	A	
	小中交流会、小中研修会、出前授業、連絡会により、小中の情報交換が進んでいる。	A	
業務改善	ノー会議デー、ノー部活デー、定時退庁が進んでいる。	D	・昨年に比べ少し改善されたが、勤務時間の適正化に向け大幅な業務改善が必要である。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

・重点目標として妥当である。重点目標は学校だけの課題ではなく、家庭や地域の目標としてとらえて取り組みたい。
・学校は、保護者や地域への啓発をしてほしい。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・地域との連携は、先生方にもっと余裕がなければ難しいと考える。だからこそ、学校が主となってすること、地域が主となってすること、このすみ分けをきちんとすることがお互いの負担軽減につながると思う。
・「ふるさとを誇りに思うか」は、保護者や地域住民の子どもに対する接し方で変わってくると思う。保護者の情操教育にも期待する。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	・家庭学習は目的意識を持たせないと自主的な学習は難しい。学校で学習に対する意欲づけ、そして、家庭学習の目的意識を持たせてほしい。 ・知識を活用するためにも対話のある授業は有効だと思うので、引き続き、ペア、グループでの話し合いを中心にした授業に取り組んでいただきたい。
生徒指導	・学校を訪問したときも地域でも、生徒たちは気持ちよく挨拶してくれ、とても嬉しい。 ・保護者の回答で「お子様は家庭や地域の中でよくあいさつしている」がやや低い値になっているが、思春期の子供たちが家であいさつをすることには少し照れがあるのか？或いは、保護者の満足レベルが高いのか？一般的にはよくあいさつしていると思う。
家庭 地域連携	・地域の中でなかなか子供の姿を見ることがない。特に、バス通学の生徒は出会わない。 ・学校は各種のたよりやHPなど情報発信しているが、保護者は日々の生活に追われ、たよりやHPをゆっくり読んだり見たりする時間がないのではないかと思われる。しかし、楽しみにしている保護者や地域住民もあるので継続してほしい。 ・高齢者と生徒たちが一緒になって取り組めることがあれば、地域としては大変嬉しい。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立西紀中学校
校長　細見博

兵庫県篠山市立西紀中学校之印

1　学校教育目標等

（教育目標）基礎力・思考力・実践力をもち、磨き合って共に自立に向かう生徒の育成
（めざす生徒像）主体的な学びと対話を通して、深く考え実践する生徒
（めざす学校像）安全安心を基盤に生徒が生活・学習を創造するコミュニティ・スクール

2　今年度の重点目標

・未来を見据えて個性・能力の伸長を図るキャリア教育
・基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善
・存在感や成就感を大切にした生徒指導
・美しく活気に満ちたコミュニティ・スクール

3　学校自己評価結果

（達成状況・・A：よく達成できた　B：達成できた　C：やや課題が残る　D：改善を要する）

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
キャリア教育	教育活動全体で、学ぶことと将来や社会とのつながりを見通しながら社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力を育む。	B	「進路学習＝キャリア教育」という考えが強い。「自己分析」等も含めてキャリア教育であるという考えで、1年時より系統立て、3年間を通してキャリア教育に取り組めるようにしていく必要がある。
	生徒が生き方を考え、自らの意思と責任で自らのよさを生かす進路を選択できるよう、キャリアノートを活用し個に応じた組織的・計画的な進路指導を行う。	B	学期の振り返り用紙にキャリアノートを活用した項目を入れて取り組めた。年間を通したキャリア教育を見据え、学年当初から活用していけるようにする。
学習指導（特に授業改善）	「書く」こと通して思考をまとめ、対話を通して思考・表現を深めるなど主体的・対話的で深い学びとなる授業改善を進める。	A	教科係によるリーダー学習、各授業で予習学習、ふり返り活動に取り組んだ。タブレットが導入され、授業で活用ができている。生徒の自信や主体性の伸長につながっている。
	見通しをもって学習に取り組めるよう、指導のねらい、意図を明確化し、生徒と共有するとともに、適切な課題による家庭学習や放課後学習の充実を図る。	A	数学・英語を中心に、少人数授業やがんばりタイムなど、個に応じた指導に取り組むことができている。毎時間の授業の目標提示が定着し、外部人材を活用した読み聞かせを実施している。
生徒指導（特に情報モラル）	法・条例・学校基本方針に基づき、定期的なアンケート調査や教育相談によりいじめを積極的に認知し、関係機関とも連携し、早期解決を図る。	A	普段からきめ細かい生徒指導ができており、落ち着いた学校生活が送れている。「いじめ」を積極的に認知し、早期対応ができた。各アンケートの集計を効率的に行い、即教育相談を行うことができた。警察やゆめハウス、やまびこの郷など関係機関と連携が取れている。
	青少年愛護条例に基づき、生徒会が策定したＩＣＴ活用のルールを自ら改善・啓発するなど情報機器の使用に関する生徒の規範意識と自己教育力を高める。	A	今年度新たにつくった「いじめ０宣言」を定着させていく必要がある。学校全体で情報共有すべきことが、各学年で止まっていることがあった。情報共有の徹底が必要である。
コミュニティスクール・業務改善	学校運営協議会の協力のもと、生徒が夢（未来展望、愛郷心）、やりがい（地域貢献）、やすらぎ（安全安心）を生徒が体感する特色ある教育を進める。	A	学校運営協議会の活動が活発になり、学校と地域とのつながりが強まった。ボランティア、地域貢献活動の教職員の引率指導等の負担軽減となった。生徒数の急減に向け、多様な集団の中で主体性を発揮させる機会となる。また、教職員定数の減少に向け地域支援の促進となっている。
	生徒会と学校運営協議会が協議する「四つの力委員会」により、社会や将来につながる新たな教育活動を創り、日本遺産のまちの一員としての自覚と誇りを高める。	A	コミュニティスクールの様子も生徒が参加する形で意見を交流できている。主体的に子どもたちが活動できる仕組みづくりにつながった。地元で活躍する若い世代との交流や地域貢献活動を通して、生徒たちが未来像を感じとり、愛郷心を高めている。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

体験活動を通して、社会の一員として、社会参画への意欲、態度を養っている。特に、地域人材による学習支援や地域貢献活動により、「西紀」を担う生徒の育成を図っている。ＩＣＴ活用、情報機器の使用に関しては、さらに生徒の規範意識と自己教育力を高めていく必要がある。

（2）総合的な評価（意見・感想）

地域貢献活動に多くの生徒が参加していることをたいへん評価していただいた。「生徒が本当に素直であり、地域の人や関係機関とコミュニケーションをとっている」「有害なアプリ等に対し、啓発をしながら守っていきたい」などの意見をいただきいた。また、積極的に授業公開を進め、対話について成果をあげていることを評価いただいた。次年度の改善の柱としては以下の４点である。

1　自分がやりたいことを意思表示できる生徒が増えている。西紀中学校が取り組んでいる地域貢献活動を整理してキャリア教育につなげたらよい。

2　評価項目も高く先導的に取り組んでいる。学習習慣の定着の観点から、長期休業中に地域や大学生が学習補充の支援をできたらいい。市の環境整備もあるが、化石など地域教材をいかした学習にも取り組んでもらいたい。

3　何事にも一生懸命取り組む姿が見られ、生徒が落ち着いて生活しているのがわかる。有害アプリから子どもを守る取組を青少年健全育成協議会などと協力して進めていく必要がある。

4　PTCA フォーラムでの生徒の発表で、長年のボランティアの取組に評価をいただいた。ボランティアの取組をいかし、今後も自主性、主体性を育んで行ければと思う。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
キャリア教育	○キャリアノートの活用や、ねらいを明確にしたトライやるウィークの指導、地域特産物を活用した授業などキャリア教育の充実を図ることができた。ボランティア活動に参加する生徒の増加や生徒会の啓発など愛郷心が育っている。 △進路学習＝キャリア教育という考えが強い。自己分析等も含めて３年間を通しキャリア教育に取り組めるようにしていく。ボランティア活動についても学校全体で体験を共有できるように工夫する。 次年度の柱 社会や将来の糸口をつかむキャリア教育の意義を生徒・保護者に啓発する中で、自治的能力や社会参画する力を育成するため、部活動も含め学習・生活上の課題や将来・社会につながる課題について話し合い、合意形成し、協力・実践する活動を充実する。
学習指導（特に授業改善）	○少人数授業やがんばりタイム等、個に応じた指導に取り組めた。予習、目標の提示、書くことによる個人思考、対話による集団思考、振り返り等の授業スタンダードが定着しつつある。タブレットにより思考を深める授業が増加した。 △知識・技能が他の学習や生活で活用できるよう、見通しを立てて予習をしたり振り返って復習したりする習慣の確立を図るとともに、対話の後、修正、推敲など振り返りを充実させる。図書委員会を活用し読書への啓発を引き続き進める。 次年度の柱 知識・技能が他の学習や生活で活用できるよう、見通しを立てて予習をしたり振り返って復習したりする習慣の確立を図るとともに、書くことによる個人思考、対話による集団思考、修正・推敲などの振り返りを充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
生徒指導（特に情報モラル）	○アンケートの電子化や学年担任制により、いじめを積極的に認知し、早期対応するとともに（認知件数 4）、警察やゆめハウス、やまびこの郷など関係機関と連携、ケース会議など、些細な変化を見逃さず、きめ細かい生徒指導を進めた。 △生徒会を活用し、いじめ０宣言を定着させていくとともに、情報機器の活用など今日的課題について組織的、計画的な指導を一層進める必要がある。スクールカウンセラーの活用について、小中連携のもと一層啓発を進める。 次年度の柱 いじめ、不登校等に対して、即時即日で関係機関とも連携した組織的な教育相談を引き続き進めるとともに、情報機器の活用等、今日的課題について生徒会も活用し実感を伴った教育活動を充実する。
コミュニティスクール・業務改善	○ホームページ、電子メールサービスなどにより学校の見える化が進んだ。四つの力委員会により生徒の意見が反映された教育活動が進んでいる。ボランティアに参加する生徒が増加してきている。 △小・中学校の連携はここ数年でかなり進んだが、高校との連携の在り方を考えていく必要がある。社会に開かれた教育課程を進めるため、四つの力委員会においてめざす資質・能力を一層共有し、教育活動を充実させていく。 次年度の柱 生徒・保護者・地域・教職員による四つの力委員会により、社会に開かれた教育課程を一層進めるとともに、生徒に向き合う時間の確保のため、業務のやり方の工夫、効率化を進め、多忙感を解消する中で多忙化の解消を進める。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立丹南中学校
校長　　田端　俊典

兵庫県篠山市立丹南中学校長之印

1　学校教育目標等

校訓　　『立志・琢磨・愛郷』
学校教育目標　「確かな学力をもち　自己実現に向かう　こころ豊かな生徒の育成」

2　今年度の重点目標

1．予習習慣を定着させ、次時の学習内容を知った上で授業に臨むことにより、主体的に授業に取り組めるようにする。
2．生徒の健康や安全を守り、「自己安全管理」のスローガンのもと、危機に的確に対応できる生徒を育成する。
3．保護者や地域と連携・協働し、地域とともにある学校づくりを通して、自立した生徒を育成する。

3　学校自己評価結果
（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	ＩＣＴの効果的な活用を通して、学習意欲の高揚と家庭学習の充実を図り、主体的に授業に臨む生徒の育成が図れたか。	A	・反転授業や予習を中心とした授業を実施し、生徒が学ぶ楽しさを感じたり、生徒が説明する力をつけるような授業が展開できた。 ・ＩＣＴの活用により学習意欲を高め、理解力の向上を図ることができた。
	基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、わかる授業を創造することができたか。	A	・プリント学習や小テストの実施により個のつまずきを把握し、基礎基本の定着を図ることができた。 ・全教職員が授業研究（反転授業等）を行ったことや、互いに授業を見学できる雰囲気作りに努める等、指導力の向上を図ることができた。
生徒指導	いじめ等の事象に敏感に対応し、見過ごすことのないよう実態の把握に努めることができたか。	B	・毎月いじめアンケートを実施するとともに、日々の観察や生活ノート・教育相談等による生徒のきめ細かな実態把握に努めた。 ・生徒指導委員会（いじめ対応委員会）を中心に支援体制を確立し、保護者・関係機関との連携を強化した。SSDiary に記録を残すことを徹底し、教職員の共通理解を図っていく。
	認め合い、励まし合う仲間づくりを通して、社会に参加する態度を育成できたか。	A	・行事等でリーダーを中心として、自分たちで企画運営する力を養い、達成感と充実感を体感させることにできた。 ・ボランティア活動等、地域行事に積極的に参加した生徒が、自らが地域に必要とされていることを体感できていた。
安全・防災	すべての教育活動において生徒に「自己安全管理」の徹底を図ることができたか。	B	・生徒会やＰＴＡ、地域と連携し、あいさつ運動や交通立番活動を実施し、交通安全に対する意識を高めた。今後も連携を図っていきたい。 ・朝会等の講話で「自己安全管理」について生徒に周知徹底を図った。
	安全・防災教育の充実を図るとともに自他の生命を尊重する態度を育成することができたか。	B	・生徒が自ら考えて行動しなければならない防災訓練を実施し、安全意識の高揚を図った。 ・道徳や特別活動の時間を中心に、全教科において安全教育の充実を図った。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

・11 月の研究発表会に参加したが、全国的に発信のできる大変よい取組をなされていて、生徒が生き生きと実験等に取り組んだり、ディスカッションしている様子は素晴らしかった。次年度以降もこの取組は大変よい取組なので継続していってほしい。
・大変よい取組ではあるが、予習動画の準備等で教職員が遅くまで勤務されているのではないかと心配している。今後は無理のないところでの継続を期待する。
・学校自己評価の結果から、生徒や保護者の願いを反映した学校運営がなされていると判断できる。
・結果の分析・考察はされているが、次年度以降、どのような取組をしていくのかを具体的に明示する必要を感じる。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・授業参観では、難しい学習にもしっかりと取り組んでいて、大変落ち着いて生活ができている様子が見られた。
・行事等の参観を通して、多くの生徒が一生懸命に取り組んでいる姿に感動している。
・予習動画は大変工夫されていると聞いている。学力の向上に向けて、授業改善等さらなる取組を期待する。
・学校の施設環境については大いに改善の余地がある。これが小学６年生の学校選択にも関わっている部分があるように思う。何とかならないものか。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	（ＩＣＴ活用・反転授業に関して） ・大変効果的な学習方法であることを授業参観で実感した。生徒同士の教え合いの姿が見られたりして、かなり授業形態が工夫されている。先生方がチームとして取り組んでおられる様子も見え、今後のさらなる取組を期待する。 ・この学習形態によって、生徒の予習習慣もつき、成績は上昇しているということなので、これからも取組を継続してほしい。 ・マイナス面として、動画作成による教職員の負担の増大があると思う。業務改善に逆行しないように、作ったものを来年度以降も使用するなどの工夫をするなど、教職員の負担の軽減をお願いしたい。 ・動画を生かす授業デザインの工夫を今後考えていく。 ・研究指定を受けることで、教職員が同じ方向を向いて取組を進めたことで職員間の団結力が高まったように見える。 ・全国をリードする研究が行われていることは素晴らしい。
生徒指導	・担任と生徒との生活ノートのやりとり等で生徒の実態の把握が十分になされている様子がよくわかる。保護者の相談窓口として担任が複数いるということは大変きめ細かな配慮である。複数担任制を継続していってほしい。 ・中学生の間に、ボランティア活動等地域に出る活動をすることは良いことである。今後もできることを積極的に行っていく。
安全・防災	（安全な学校施設） ・生徒の安全確保のため、雪や大雨の際、朝から廊下等の雪除け作業等を教職員がする。他校では必要のない余分な仕事で先生方のご苦労に敬服する。 ・通学路の安全確保については、地域でもできることを考えて行動している。 （自己安全管理の徹底） ・防災訓練を学期に１回行っているが、集合場所の指定等、地震想定の避難行動は難しい。自分で考えて行動できる生徒を育成していく。 （地域とともにある学校づくり） ・地域の中でも「あいさつ運動」には賛否両論あるが、生徒会・ＰＴＡとタイアップした「あいさつ運動」および「交通立番活動」は、今後も継続していく。それによって、保護者・地域との連携を深め、生徒の安全・防災意識の高揚を図っていく。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立今田中学校
校長　　中道　　博

1　学校教育目標等

学校教育目標
「主体的に学び、自己実現に向かう、こころ豊かな生徒の育成」
目指す生徒像
「学ぶ姿勢」「学ぶ喜び」「学ぶ意欲」を持つ生徒

2　今年度の重点目標

1　コミュニティ・スクール事業を核に地域とともにある学校づくりを進める。
2　生徒の心に寄りそった組織的な生徒指導体制を確立し、いじめや不登校のない学校づくりを進めるとともに、学習指導の充実を図る。
3　「書く活動」「話し合う活動」を積極的に取り入れた授業を展開することにより、活用する力を育成する。

3　学校自己評価結果

（達成状況・・A：よく達成できた　B：達成できた　C：やや課題が残る　D：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学力向上	○書く活動・話し合う活動の充実（毎回の授業の中で書く活動・話し合う活動を積極的に取り入れる。）	B	授業の中で書く活動を積極的に取り入れることができた。話し合う活動も軌道に乗りつつあるが、今後は今田中学校のスタイルを確立し、自分の考えをしっかり発表できる力を育成することが重要である。
	○学習習慣の確立（ノート指導を中心に個々の特性に応じた学習方法を指導する）	B	全学年チャレンジノートの取組が定着している。少人数の利点を生かし、個々の生徒の特性に応じた学習方法の指導を今後も継続したい。
生徒指導の充実	○早期対応の徹底（教育相談を充実し、生徒との信頼関係を構築する。）	B	教育相談を随時実施することにより、教師と生徒との信頼関係が深まった。トラブルも早い段階で発見、指導できた。引き続き取り組んでいく。
	○共通理解・共通実践の徹底（生徒指導委員会の方針を全職員が徹底して実践する）	B	生徒指導委員会で気になる生徒に対する情報および指導の方向性を共有し、全職員が共通実践していくことができている。
	○情報機器利用マナー指導の充実（SNS をめぐるトラブルの未然防止を徹底する。）	A	情報機器端末に関する外部講師による講演会を定期的に実施することによって生徒の意識が高まり、SNSをめぐるトラブル等の未然防止につながった。
地域とともにある学校づくり	○情報発信の充実（学校便りや学級通信、ホームページで定期的に情報発信する。）	B	学校だより、ホームページで定期的に学校全体の取組を積極的に発信できた。本年度は学校だよりを全戸配布することによって、地域の方々に情報提供できた。
	○コミュニティ・スクール事業を核に地域・保護者との協力体制を構築する。	B	学校運営協議会が主体となって、創立７０周年記念人文字空撮を実施するなど、創意あふれるコミュニティ・スクール事業を推進することができた。
	○小中連携の強化（小中の職員の相互参観を推進するとともに共通指導事項を設定し、共通実践する。）	B	オープンスクールの機会などを利用し、相互に授業参観ができた。また小中共通の授業規律について協議を進め、ポスターを作成し、足並みをそろえて指導することができつつある。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

・教育相談および組織的な生徒指導体制が確立されることにより、いじめや問題行動の早期発見・早期解決につながっている。
・コミュニティ・スクール事業が地域・保護者・学校をつなぐ取組となっている。とくに創立７０周年記念人文字空撮や記念品配布は地域の方々の中学校への関心を高めるよい機会となった。

（2）総合的な評価（意見・感想）

・生徒たちが気持ちのよいあいさつをしてくれる。よき伝統になりつつある。
・ボランティア活動にも積極的に参加し、地域に貢献しようとする意識が高まっている。
・少人数の学校ではあるが、さまざまな行事の際に心を合わせて、若い力の輝きを見せてくれている。生徒たちの頑張りが地域に活力を与えると感じた。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学力向上	・学習指導要領が改訂され、単なる知識の習得だけではなく、活用する力やコミュニケーション力を育成することが重要になっている。それを先生方がしっかりと意識しながら、授業改善に取り組んでもらいたい。今田中学校は「書く活動」「話し合う活動」を重視されているが、その方向で生徒の力を伸ばしてもらいたい。 ・今田中学校は少人数であるが、それを利点として、きめ細かな学習指導がなされていると感じる。家庭学習のあり方なども個々の特性に応じた指導がなされている。個々の力を最大限に伸ばしてやってほしい。 ・目標を持つことで、生徒は大きく変わる。進路学習を充実することが目標を持つことにつながるのではないか。キャリア教育が注目されている中、今田中学校のキャリア教育の方向性をしっかり持ち、３年間を見通した指導を期待する。
生徒指導の充実	・中学時代はさまざまな悩みや問題が出てくる時期である。生徒の変化を見逃さず、全職員で対応してもらっていると感じる。今後も信頼関係を大切にしながら、さらに丁寧な声かけや指導をお願いしたい。 ・保護者の考え方が多様になっている。家庭との連絡を密にしながら保護者と丁寧に対話していくことが、信頼関係を築くことになる。学校が進める「信頼関係を根幹に据えた指導」を今後も継続してもらいたい。 ・生徒のアンケート結果から、学習面でも生活面でも充実した生活を送っていることがうかがえる。それに対して保護者アンケートは生徒の結果とややギャップが感じられる。学校の取組をさらに発信していくことが重要ではないか。
地域とともにある学校づくり	・学校運営協議会委員として学校を訪れる機会が多かった。少人数で学校行事の盛り上がりはどうかと思っていたが、生徒たちがきびきび行動し、力一杯演技するのを見せてもらい、こちらも元気をもらった。今後も地域住民として学校を訪れ、「開かれた学校づくり」に協力していきたい。 ・地域の行事などでボランティア活動に積極的に取り組む生徒たちが多くいることに感心している。コミュニティの中でいろいろな経験をすることがとても大切だと思う。中学生の力で、今後も地域を盛り上げていってもらいたい。 ・学校の多忙化がよく話題になっている。学校が多くのことを抱え込みすぎず、地域や家庭と役割分担しながら子ども達を育てることが大切だと感じる。

平成２９年度　学校評価報告書

篠山市立篠山養護学校
校長　　伊勢　三十六

1　学校教育目標等

夢と希望を抱き 心豊かにたくましく生きる子の育成
～元気な子ども　元気な先生　元気な学校　～

2　今年度の重点目標

○一人一人の教育的ニーズに応じた、きめ細かな指導の充実
○学校・家庭・地域が更に連携強化した安全で信頼される学校づくり
○ねらい・目的を明確にした学校行事・校外学習・ふるさと教育の推進
○「更に質の高い特別支援教育を目指して」をテーマにした３カ年計画の推進
　センター校的役割　教育課程の編成　キャリア教育　研究推進　組織等の活性化

3　学校自己評価結果
（達成状況・・Ａ：よく達成できた　Ｂ：達成できた　Ｃ：やや課題が残る　Ｄ：改善を要する）

分　野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学校運営	①定期的に学校だより・学部通信・保健だより・進路だよりを発行し、学校 HP の内容を充実し、保護者や地域等への情報発信が出来ている。	A	＊定期的に各種通信の発行が出来ている。特に、学校だより・進路だよりは保護者からも好評である。ＨＰについては、情報アップにおいて個々の希望があるため、課題が残る。
	②学校評価の取り組みを充実させ、教育活動の成果と課題を検証し、改善が図られている。	C	＊評価方法や項目を見直し改善することはできたが、課題や改善策を次年度へどのようにつなげていくかには課題が残る。また、教職員の意識改革も必要である。
	③学校教育目標・指導の重点を意識し、３カ年計画を中心に、その具現化に向けての取り組みが行えている。	B	＊３カ年計画を意識して取り組むことが、組織の一体感や個々の意欲の向上につながった。２年目の指標も明確化されたが、教育課程の改編には課題が残る。
教育課程 学力向上	①「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」にそって、幼児生や保護者のニーズに対応しながら、的確で効果的な指導と支援を進める。	B	＊ ICF に基づく個別の指導計画をチームで検討することが定着し、指導にも生かすことが出来ている。昨年以上に、目標やねらいを明確にして指導にあたることができている。
	②教材・教具・授業展開を工夫改善し、幼児生の学習意欲の向上を図り、個々に応じた学力・能力開発に取り組む。	B	＊キャリア教育の視点に立った授業づくりに取り組み、教材教具の使用や授業展開に教職員の意欲と工夫が感じられる。更に、自立活動の授業の充実を図っていく必要がある。
キャリア教育	①個々の特性や各学部の発達段階に応じたキャリア教育への取り組みが計画的に推進できている。	A	＊「つけたい力」リスト・「チェックシート」の作成、社会参加型の体験学習・作業学習の導入は大いに評価できる。更なる活用・拡大を図っていく。
	②外部関係機関との連携を密にして、就労に向けての一貫性のある進路指導体制が構築できている。	B	＊充実した進路相談会や進路フォーラムが開催でき、保護者への進路情報の提供も充実してきた。更なる、進路指導・進路学習の開拓は必要である。

生徒指導	①生活習慣や生活のリズムの形成を図り、自立への基礎的な力を育成する。	C	＊早期対応の生徒指導に取り組んできたが、結果的に解決に至っていない事案が２つ残っていることは課題である。また、幼児生の特性や保護者のニーズを踏まえた指導の充実は課題である。
資質向上	②個々の課題や目標を明確にし、教職員のライフステージに応じた研修ができている。	B	＊人事評価育成システムを利用しての重点課題の設定、３回以上の面談、指導助言、レポート作成は一定の成果があった。校内外の研修体制、研修内容の見直しは必要である。

4　学校関係者評価結果

（1）重点目標についての評価

＊学校教育目標・重点目標を中心に、学校の教育方針がよくわかり、地域や保護者からも多くの前向きな評価が聞こえてくる。今後も、更に取り組みを充実させていくことが大切である。
＊３カ年計画への取り組み、実践状況は大いに評価できる。特に、キャリア教育への取り組みはすばらしいものがある。

（2）総合的な評価（意見・感想）

＊幼児生・教職員とも、来校者への明るい挨拶と対応は、非常に好感が持てる。また、学校行事や地域行事等から、教職員と幼児生との良好な信頼関係がうかがえる。校長・教頭のリーダーシップのもと、様々な教育活動に対して、組織的な取り組みができているのが、側面から感じられる。
＊様々な行事や校外学習での教職員の表情や態度から、意欲の高さを感じることができる。
＊昨年度は課題であった、進路フォーラムや進路相談会に保護者や地域を巻き込んでいくこと、キャリア教育の充実及び卒業後の出口の開拓には、すばらしい成果が表れている。
＊教職員が忙し過ぎるのでは・・？教職員のメンタルヘルスには気をつけてほしい。また、校内組織の簡素化やスリム化にも、更に取り組んで頂きたい。
＊不審者等の来訪に対して、防犯カメラの設置は効果がある。教材教具、教育備品の整理整頓には取り組んでほしい。
＊ＰＴＡ活動において、組織や事業内容の検討は、今後の課題である。

（3）学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分　野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校運営	＊学校運営協議会が、PTA 事業・学校行事に更に参画できることを期待する。 ＊５つの柱を中心に「更に質の高い特別支援教育を目指して」をテーマに、３カ年計画に継続的・組織的に取り組まれることは非常に良いことだ。現状の課題解決への取り組みが具体化されている。
教育課程 学力向上	＊保護者や地域のニーズに対応できる高等部の教育課程の改編が大切である。 ＊学力以上に、自立と社会参加を目指した生活力・体力の向上に取り組んでほしい。
キャリア教育	＊３カ年計画の柱として、更に取り組みを充実させてほしい ＊「つけたい力」リスト・「チェックシート」の作成、社会参加型の体験学習・作業学習の導入は大いに評価できる。 ＊現場施設実習や進路学習の更なる充実を図ってほしい。
その他の分野より	＊市内唯一の特別支援学校として、センター校として、その役割を果たしていこうとする前向きな取り組みは評価できる。頑張って頂きたい。 ＊医療的ケアを必要とする幼児生への支援の充実、学校への不適応を起こしている幼児生や保護者への対応は、今後の課題である。 ＊来年度、居住地校交流・共同学習・情報モラル教育の充実に努めてほしい。